

平成22年度  
産学連携人材育成  
支援委託事業

# 平成22年度コーディネーター人材育成研修計画 効果測定報告書

平成23年3月

財団法人 全日本地域研究交流協会

本報告書は、農林水産省の「平成22年度産学連携人材育成支援委託事業」による委託業務として、財団法人 全日本地域研究交流協会が「平成22年度 コーディネーター人材育成研修計画」にもとづき実施した研修の効果について「効果測定報告書」としてとりまとめたものです。

# 平成22年度コーディネーター人材育成研修計画 効果測定報告書

## <目次>

1.	平成22年度コーディネーター人材育成研修計画の受講状況	1
2.	人材育成研修プログラムの評価	9
2.1.	コーディネート推進コースの評価	9
2.1.1.	コーディネート推進コースの受講者の事前意識	9
2.1.2.	コーディネート推進コースのプログラム全体の評価	13
2.1.3.	コーディネート推進コースのカリキュラムの内容の評価	30
2.2.	コーディネート推進強化コースの評価	40
2.2.1.	コーディネート推進強化コースの受講者の事前意識	40
2.2.2.	コーディネート推進強化コースのプログラム全体の評価	43
2.2.3.	コーディネート推進強化コースのカリキュラムの内容の評価	44
3.	人材育成研修プログラムのカリキュラム以外の評価	49
3.1.	研修形式とカリキュラムの時間割・日程	49
3.2.	テーマの設定	51
3.3.	人的ネットワークの形成	52
4.	平成22年度コーディネーター人材育成研修計画の評価と今後のあり方	54
	資料	55
	【参加申込書】	55
	【事後アンケート】	57



## 1. 平成 22 年度コーディネーター人材育成研修計画の受講状況

農林水産省は、全国の企業、大学、試験研究機関の勢力を結集し、農林水産・食品産業分野のみならず、素材・医薬・エネルギーなどの異分野との連携を強化し、農山漁村に豊富に存在する資源を活用した新産業の創出に役立つ研究開発を推進している。

このような連携を強化するため、平成 22 年度より、全国に農林水産・食品産業分野の高度な専門知識を有するコーディネーターを配置し、地域における産学連携活動を一体的に支援すると同時に、すでに同分野で活躍しているコーディネーターや今後同分野のコーディネーター業務を担当することを希望する人材に対して、人材育成研修を行い、本分野における産学連携支援人材のスキルの向上を図ることとし、平成 22 年度は 7 地域で開催した。

平成 22 年度のコーディネーター人材育成研修は、農林水産・食品産業分野において産学連携を支援する人材が、生産現場や産業界、社会におけるニーズから課題や要望を想定し、技術シーズとのマッチングにより研究課題を設定するために必要となる基礎的なスキルを習得することを目的とし、「コーディネート推進コース」と、その強化・補完の位置づけとして「コーディネート推進強化コース」を併せて実施した。研修内容は、主に以下の項目について講義・討論を行うとともに、事例分析を実施し、受講者の主体的な参画を得て研修を展開した。

### 【コーディネート推進コース】

(講義・討議) 農林水産系コーディネーターに求める視点

- ・農林水産分野において活動するコーディネーターの勤務を紹介し、受講者から提示された業務上の課題への対応を全員で討議し、視点の共有を行う

(講義・討議) 研究ニーズの評価の視点

- ・研究ニーズの評価の視点について、技術の選別の観点から習得する
- ・具体的な事例を紹介し、受講者との討論を行うことで評価のポイントについて理解を深める

(事例分析) 現場ニーズに即した研究計画をつくるには？ —計画形成のポイント—

- ・産学連携の具体的な事例や、異分野連携の取組事例について紹介したうえで、グループ討議により当該事例を分析し、研究ニーズの洗い出し、研究課題の設定、課題解決までの様々なポイントを「現場ニーズからの課題設定に向けた俯瞰分析シート」を活用して整理、受講者自身の視点に基づく課題解決の方策をグループで討議し、提案する

### 【コーディネート推進強化コース】

(講義・討議) 現場ニーズからの事業化プロジェクト構築に向けた評価力・判断力の強化の視点

- ・より具体的に研究課題を設定するために必要となるスキルのブラッシュアップを図る

本研修の受講対象者については、大学や地域の産学連携機関において農林水産・食品産業分野のコーディネーター業務を担当している方、今後同様の業務を担当する事を希望している方、及び自治体等において産学連携に関わる業務に従事している方を対象とした。

研修の受講状況について、「コーディネート推進コース」は 7 地域合計で 170 名であり、地域別にみると、「関東」で 38 名と最も多く、次いで「中国四国」の 28 名、その他の地域は約 20 名の参加であった。また、「コーディネート推進強化コース」は 22 名であり、受講者すべてが「コーディネート推進コース」を受講している（表 1.1 参照）。

表 1.1 平成 22 年度コーディネーター人材育成研修の受講状況

(単位:人)

開催地域	コーディネート推進コース							コーディネート 推進強化コース	
	北海道	東北	関東	東海	近畿	中国 四国	九州	計	関東
受講者数	21	20	38	18	23	28	22	170	22

「コーディネート推進コース」の受講状況について、所属機関別に示したものが図 1.1 である。受講者全体でみると、最も多いのが「大学」の 36 名（全体の 21%）、次いで「財団等の支援機関（公設試を除く）」が 29 名（全体の 17%）、「企業」が 26 名（全体の 15%）である。また、農林水産関連機関<sup>1</sup>については、「農林水産関連公設試験研究機関<sup>2</sup>（以下、「公設試」という）」が 21 名（全体の 13%）、「農水支援団体」が 10 名（全体の 6%）、「普及指導センター」3 名（全体の 2%）、「農業/林業/漁業組合」1 名（全体の 1%）である。地域別にみると、「大学」所属の受講者が多い地域は「近畿」と「中国四国」である。「財団等の支援機関（公設試を除く）」や「農水支援団体」が多い地域は、「東北」、「東海」、「九州」である。「企業」所属の受講者が多い地域は「関東」である。「北海道」は他の地域に比べ多様な機関から参加しているが、「公設試<sup>3</sup>」所属の受講者が比較的多い。このように、組織として産学連携部門の部署を配置している機関からの受講者が多いが、多様な機関の方々が受講しており、その状況は地域ごとに異なっている。

また、業務目的別について、受講者全体でみると、最も多いのが「地域における産業創出」の 54 名（全体の 32%）、次いで「異分野連携等による新産業の創出」が 38 名（全体の 22%）、「現場における課題解決」が 25 名（全体の 15%）である（図 1.2 参照）。地域別にみると、「地域における産業創出」が多い地域は「東北」、「近畿」、「中国四国」、「九州」であり、「関東」は「異分野連携による新産業創出」が多く、これらの地域はこの 2 つ目的で業務を行う受講者が過半数を占めている。また、「東海」は、「地域における産業創出」と「現場における課題解決」が多い。そして、「北海道」は他の地域に比べ所属機関が多様であるため、業務目的別では比較的平均的である。このように、産業創出を業務目的とする受講者が多いが、業務目的は多様であり、その状況は地域ごとに異なっている。

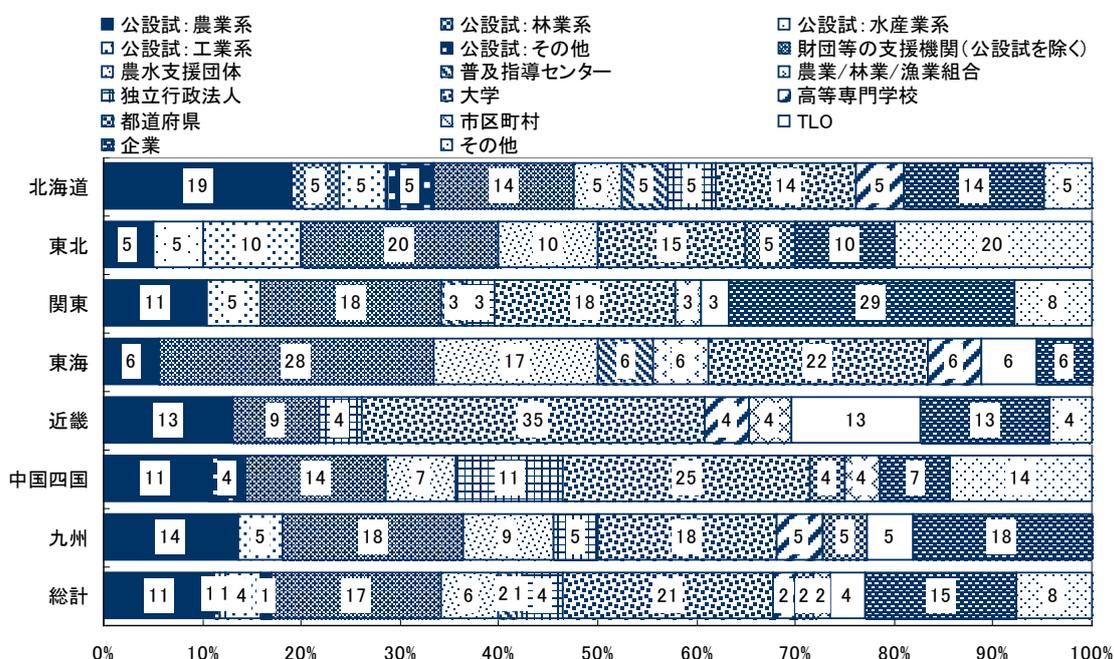
<sup>1</sup> 農林水産関連機関とは、ここでは、「公設試：農業系」、「公設試：林業系」、「公設試：水産業系」、「農水支援団体」、「普及指導センター」、「農業/林業/漁業組合」の総称をさす。

<sup>2</sup> 農林水産関連公設試験研究機関とは、ここでは、「公設試：農業系」、「公設試：林業系」、「公設試：水産業系」の総称をさす。

<sup>3</sup> 「公設試」とは、ここでは、「公設試：農業系」、「公設試：林業系」、「公設試：水産業系」、「公設試：工業系」、「公設試：その他」の総称をさす。

(単位:人)

	北海道	東北	関東	東海	近畿	中国四国	九州	総計
公設試:農業系	4	1	4	1	3	3	3	19
公設試:林業系	1							1
公設試:水産業系		1						1
公設試:工業系	1	2	2				1	6
公設試:その他	1					1		2
財団等の支援機関(公設試を除く)	3	4	7	5	2	4	4	29
農水支援団体	1	2		3		2	2	10
普及指導センター	1		1	1				3
農業/林業/漁業組合				1				1
独立行政法人	1		1		1	3	1	7
大学	3	3	7	4	8	7	4	36
高等専門学校	1			1	1		1	4
都道府県		1				1	1	3
市区町村			1		1	1		3
TLO			1	1	3		1	6
企業	3	2	11	1	3	2	4	26
その他	1	4	3		1	4		13
総計	21	20	38	18	23	28	22	170

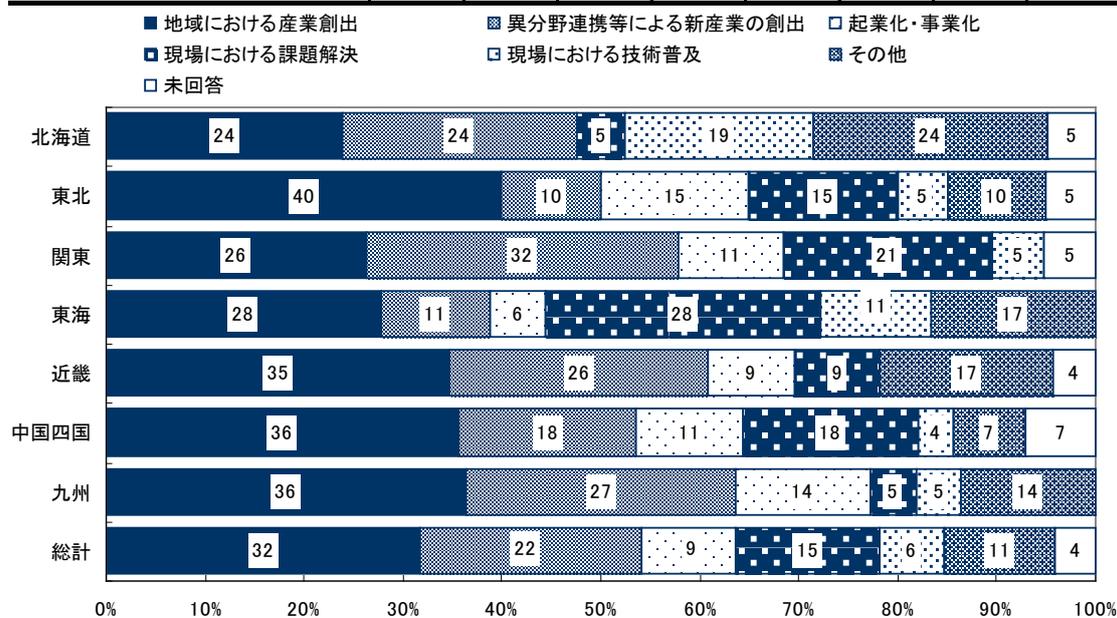


注)・公設試:農林水産系は、農業系に分類している。  
・グラフの数値は構成比の値。

図 1.1 コーディネート推進コースの所属機関別受講の状況

(単位:人)

	北海道	東北	関東	東海	近畿	中国四国	九州	総計
地域における産業創出	5	8	10	5	8	10	8	54
異分野連携等による新産業の創出	5	2	12	2	6	5	6	38
起業化・事業化		3	4	1	2	3	3	16
現場における課題解決	1	3	8	5	2	5	1	25
現場における技術普及	4	1	2	2		1	1	11
その他	5	2		3	4	2	3	19
未回答	1	1	2		1	2		7
総計	21	20	38	18	23	28	22	170



注) グラフの数値は構成比の値。

図 1.2 コーディネート推進コースの業務目的別受講者の状況

産学連携業務に携わっている受講者は、受講者全体で見ると、123名(全体の72%)であり、携わっていない受講者に比べ多い(図1.3参照)。地域別にみると、すべての地域で産学連携に携わっている受講者が携わっていない受講者に比べ多いが、「北海道」、「関東」、「東海」、「中国四国」では他の地域に比べ産学連携業務に従事していない受講者が多い。また、産学連携業務に携わっている受講者のその経験年数について、受講者全体で見ると、「5年以上」が多く、36名(全体の30%)であり、次いで「1年未満」が31名(全体の26%)、「1年～2年未満」が28名(全体の24%)と、産学連携の業務経験の少ない受講者が多い(図1.4参照)。地域別にみると、「北海道」、「九州」が「5年以上」が多く、長年産学連携業務に携わってきた受講者が多い。いっぽう、「東北」、「東海」、「近畿」、「中国四国」は「1年未満」、「1年～2年未満」が多く、産学連携の業務経験の少ない受講者が多い。「関東」は、産学連携の業務経験の少ない受講者と長年産学連携業務に携わってきた受講者がほぼ同数であった。

(単位:人)

	北海道	東北	関東	東海	近畿	中国四国	九州	総計
従事している	11	17	28	12	18	19	18	123
従事していない	7	3	10	4	4	8	3	39
未回答	3			2	1	1	1	8
総計	21	20	38	18	23	28	22	170

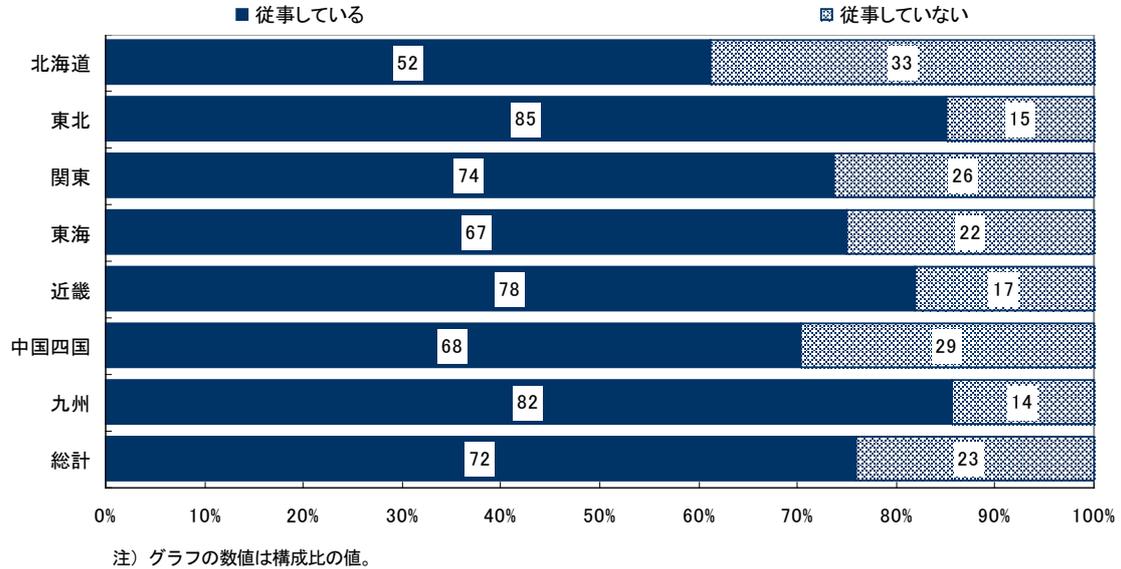


図 1.3 コーディネート推進コースの受講者の産学連携業務従事状況

(単位:人)

	北海道	東北	関東	東海	近畿	中国四国	九州	総計
1年未満	3	4	5	3	7	4	5	31
1年～2年未満	1	3	7	5	6	4	2	28
2年～3年未満	1	2	3	2		3	2	13
3年～4年未満		3	2		1	1		7
4年～5年未満		1	1	1	1			4
5年以上	6	2	10	1	3	5	9	36
未回答		2				2		4
総計	11	17	28	12	18	19	18	123

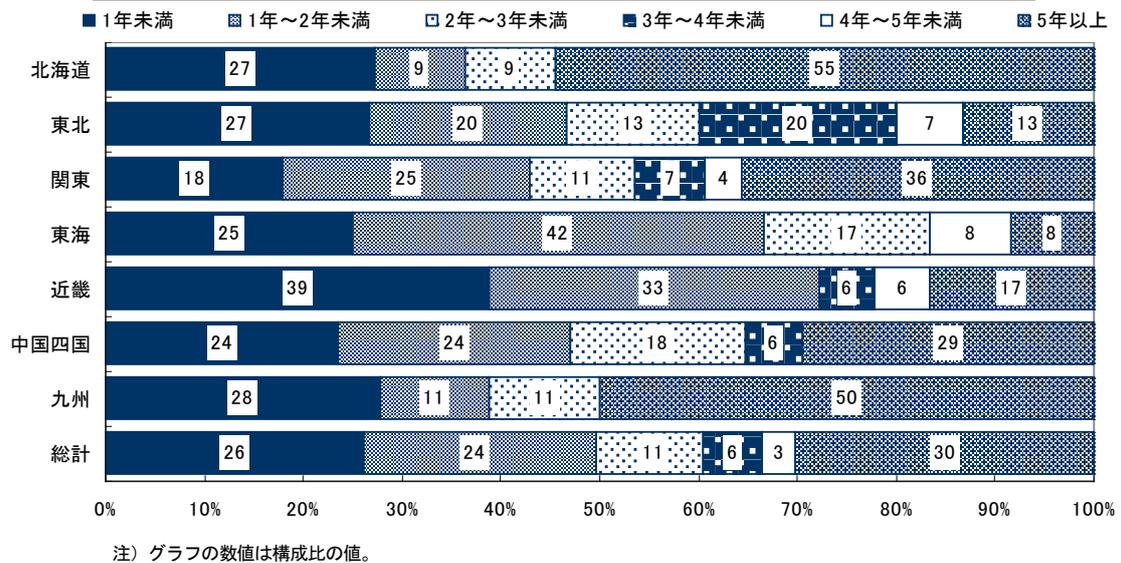


図 1.4 コーディネート推進コースの産学連携業務従事者の経験年数

続いて、「コーディネート推進強化コース」について、所属機関別にみると、「企業」が最も多く8名（全体の35%）、次いで、「大学」が5名（全体の22%）、「財団等の支援機関（公設試を除く）企業」が3名（全体の14%）である。また、農林水産関連機関については、「公設試：農業系」が2名（全体の13%）であった。また、「東北」、「関東」、「近畿」、「中国四国」、「九州」からの参加があり、多様な機関の方々が受講している（図1.5参照）。

(単位:人)

	東北	関東	近畿	中国四国	九州	総計
公設試:農業系		1		1		2
財団等の支援機関(公設試を除く)	1	1		1		3
独立行政法人				1		1
大学		4	1			5
高等専門学校			1			1
市区町村		1				1
企業		6	1		1	8
その他		1				1
総計	1	14	3	3	1	22

注) 地域は「コーディネート推進コース」の開催地域をもとに受講者の所属機関の所在地で分類したものである。

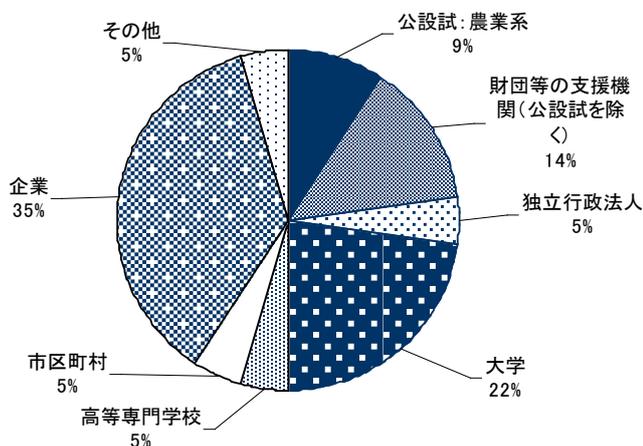


図 1.5 コーディネート推進強化コースの所属機関別受講者の状況

また、業務目的別にみると、「異分野連携等による新産業の創出」が最も多く6名（全体の26%）、次いで、「起業化・事業化」、「現場における課題解決」がそれぞれ5名（全体の23%）、「地域における産業創出」が4名（全体の18%）であり、産業創出を業務目的とする受講者が多いのは、「企業」に所属する受講者が多く、「コーディネート推進コース」と同様に産業創出を業務目的とする受講者が多いが、全体的には受講者の業務目的は多様である（図1.6参照）。

産学連携業務従事状況別にみると、産学連携業務に携わっている受講者は15名（全体の68%）を占め、産学連携に携わっている受講者が携わっていない受講者に比べると多い（図1.7参照）。また、産学連携業務従事者を経験年数にみると、「1年未満」、「1年～2年未満」が多く、産学連携の業務経験の少ない受講者が多い（図1.8参照）。

(単位:人)

	東北	関東	近畿	中国四国	九州	総計
地域における産業創出		1	2	1		4
異分野連携等による新産業の創出		4	1	1		6
起業化・事業化	1	3			1	5
現場における課題解決		4		1		5
現場における技術普及		1				1
その他		1				1
総計	21	20	38	18	23	28

注) 地域は「コーディネート推進コース」の開催地域をもとに受講者の所属機関の所在地で分類したものである。

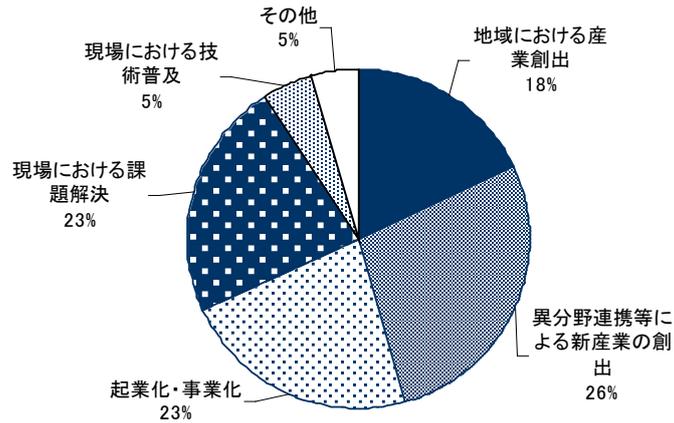


図 1.6 コーディネート推進強化コースの業務目的別受講者の状況

(単位:人)

	東北	関東	近畿	中国四国	九州	総計
従事している		9	2	3	1	15
従事していない	1	5	1			7
総計	1	14	3	3	1	22

注) 地域は「コーディネート推進コース」の開催地域をもとに受講者の所属機関の所在地で分類したものである。

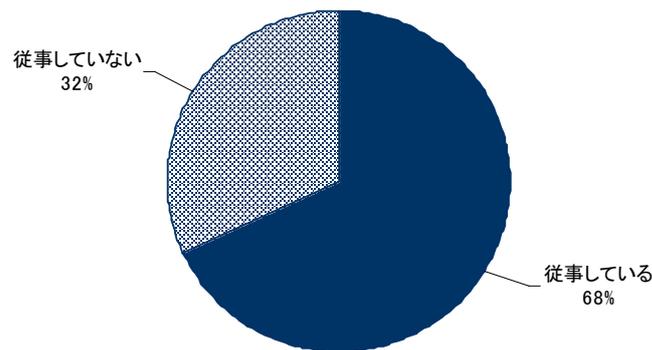


図 1.7 コーディネート推進強化コースの受講者の産学連携業務従事状況

(単位:人)

	関東	近畿	中国四国	九州	総計
1年未満	1	1	1		3
1年～2年未満	3	1	2		6
2年～3年未満	2				2
4年～5年未満	1				1
5年以上	2			1	3
総計	9	2	3	1	15

注) 地域は「コーディネート推進コース」の開催地域をもとに受講者の所属機関の所在地で分類したものである。

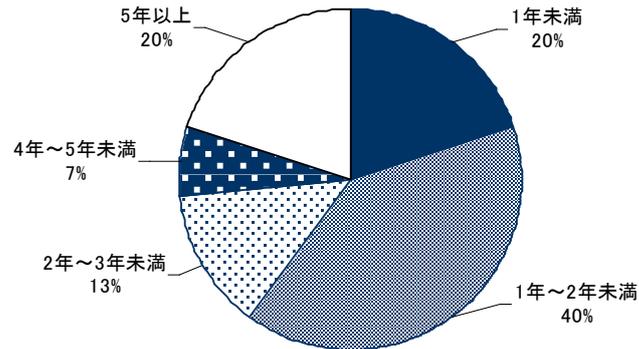


図 1.8 コーディネート推進強化コースの産学連携業務従事者の経験年数

続いて、平成 22 年度コーディネーター人材育成計画について、受講者の参加申込書と研修終了後のアンケートをもとに研修の評価を行い、次年度以降の研修計計画に反映させるべき事項を抽出する。

## 2. 人材育成研修プログラムの評価

### 2.1. コーディネート推進コースの評価

ここでは、コーディネーター人材育成研修計画「コーディネート推進コース」の評価について、受講者の参加申込書と研修終了後のアンケートをもとに考察する。受講者の参加申込書および研修終了後のアンケートの回収状況については表 2.1 のとおりである。

表 2.1 コーディネート推進コースの参加申込書および事後アンケートの回収状況

開催地域	北海道	東北	関東	東海	近畿	中国 四国	九州	計
参加申込書(件)	21	20	38	18	23	28	22	170
事後アンケート 回答数(件)	16	18	23	15	23	15	15	125
回答率(%)	76.2	90.0	60.5	83.3	100.0	53.6	68.2	73.5

注) 参加申込書の件数は、受講者数と同値である。

#### 2.1.1. コーディネート推進コースの受講者の事前意識

参加申込書に記入された「業務において抱えている課題」、「業務を行うにあたり不足しているスキル」、「研修に対する要望」から、コーディネート推進コースの受講者の研修受講前の意識、状況を整理する。

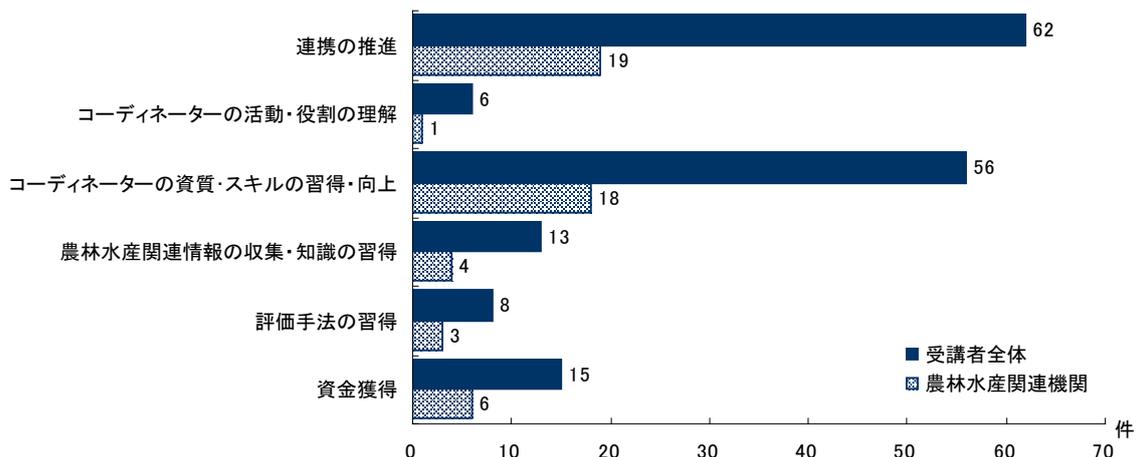
「業務において抱えている課題」におけるコーディネーター業務に関する事項を整理すると(図 2.1 参照)、「連携の推進」が最も多く 62 件(全体の 36.5%)であり、「産学連携のシステムが構築されていない」といった「連携体制の構築」や「農商工連携の促進」などの「異分野連携の推進」に関する課題も多い。農林水産関連機関<sup>1</sup>所属の受講者についても連携の推進について同様の課題を抱えている。

次に多い業務課題が「コーディネーターの資質・スキルの習得・向上」であり、56 件(全体の 32.9%)であり、「シーズとニーズのマッチングの難しさ」、「出口を見据えた研究テーマをどのように立案・設置していくか」を理由としてあげている受講者が多い。また、農業系の公設試の受講者から、先の 6 次産業化や農商工連携などの連携の推進の課題に対し、「コーディネーターとしてスキルを身につける必要性を強く感じている」との意見が 2 件ある。そして、コーディネーターの業務と関連がある「農林水産関連情報の収集・知識の習得」が 13 件(全体の 7.6%)、「評価手法の習得」が 8 件(全体の 4.7%)である。

さらに、コーディネーター業務の一つとして、助成金や競争的研究資金などの「資金獲得」は 3 番目に多い課題であり、15 件(全体の 8.8%)となっている。

<sup>1</sup> 農林水産関連機関とは、ここでは、「公設試：農業系」、「公設試：林業系」、「公設試：水産業系」、「農水支援団体」、「普及指導センター」、「農業/林業/漁業組合」の総称をさす。

	受講者全体 (n=170)		うち農林水産関連機関 (n=35)	
	件数(件)	構成比(%)	件数(件)	全受講者に占める割合(%)
連携の推進	62	36.5	19	30.6
コーディネーターの活動・役割の理解	6	3.5	1	16.7
コーディネーターの資質・スキルの習得・向上	56	32.9	18	32.1
農林水産関連情報の収集・知識の習得	13	7.6	4	30.8
評価手法の習得	8	4.7	3	37.5
資金獲得	15	8.8	6	40.0

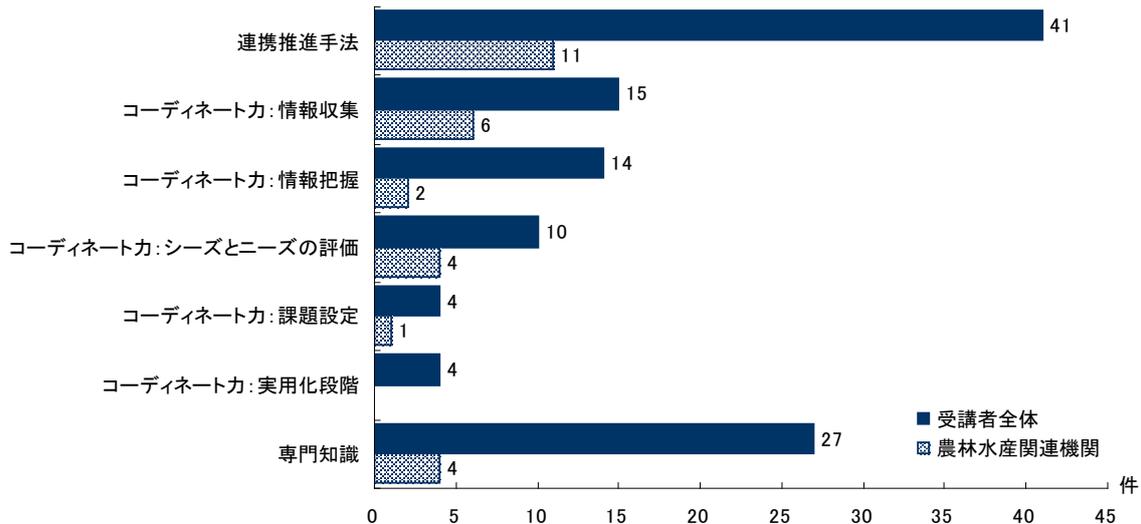


注)・農林水産関連機関とは、ここでは、「公設試：農業系」、「公設試：林業系」、「公設試：水産業系」、「農水支援団体」、「普及指導センター」、「農業/林業/漁業組合」のことをさす。  
・複数回答であり、上位6項目をあげている。

図 2.1 コーディネート推進コースの受講者の業務課題

「業務を行うにあたり不足しているスキル」については、先の業務課題の解決のために必要となるスキルがあげられていると考える。「業務を行うにあたり不足しているスキル」におけるコーディネーター業務に関する事項を整理すると(図2.2参照)、「連携推進手法」が最も多く41件(全体の24.1%)であり、先の業務課題の解決のために「産連携をするにあたっての全般的なコーディネート能力」が必要であると考え受講者が多く、農林水産関連機関所属の受講者についても同様である。次いで、コーディネート力のなかでも「情報収集」の15件(全体の8.8%)、「情報把握」の14件(全体の8.2%)である。シーズに関する情報の収集や把握、ニーズの把握に対するスキルが不足しているという受講者が多い。またこれらに関連する「シーズとニーズの評価」が10件(全体の5.9%)であり、農林水産関連機関所属の受講者を含め「効率的かつ量的にも質的にも合意形成可能な研究評価手法」が必要であると考え受講者もいる。ニーズの解決のための「課題設定」が4件(2.4%)である。「専門知識」については、27件(全体の15.9%)であり、「自分の専門分野以外の分野についての基礎知識とそれを活用するスキル」が不足しているという受講者が多い。異分野連携や農工連携の際に、工業系の受講者が農林水産関連の専門知識や考え方を、農林水産系の受講者が工業系の知識や考え方を必要としている。

	受講者全体 (n=170)		うち農林水産関連機関 (n=35)	
	件数(件)	構成比(%)	件数(件)	全受講者に占める割合(%)
連携推進手法	41	24.1	11	26.8
コーディネート力:情報収集	15	8.8	6	40.0
コーディネート力:情報把握	14	8.2	2	14.3
コーディネート力:シーズとニーズの評価	10	5.9	4	40.0
コーディネート力:課題設定	4	2.4	1	25.0
コーディネート力:実用化段階	4	2.4		
専門知識	27	15.9	4	14.8

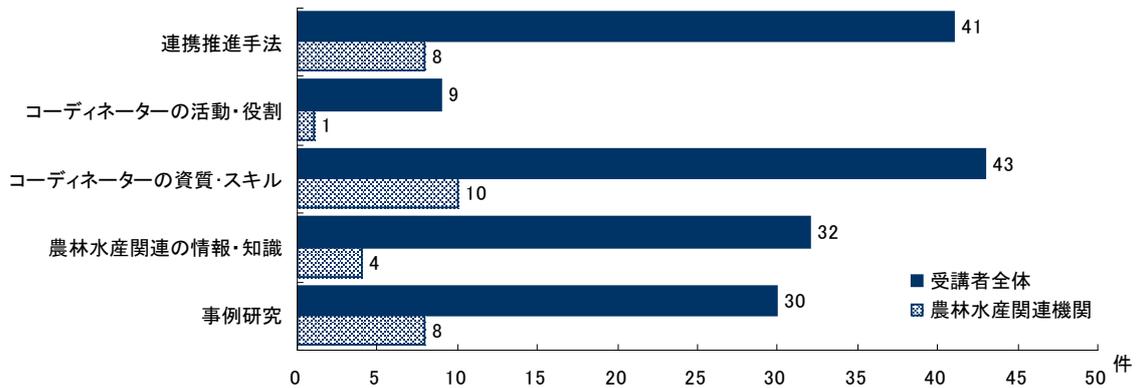


注)・農林水産関連機関とは、ここでは、「公設試：農業系」、「公設試：林業系」、「公設試：水産業系」、「農水支援団体」、「普及指導センター」、「農業/林業/漁業組合」のことをさす。  
・複数回答であり、上位7項目をあげている。

図 2.2 コーディネート推進コースの受講者が認識する不足するスキル

「研修に対する要望」については、先の業務課題の解決やそのために必要となるスキルを習得できるカリキュラムの内容があげられていると考える。「研修に対する要望」におけるコーディネーター業務に関する事項を整理すると（図 2.3 参照）、「コーディネーターの資質・スキル」が最も多く 43 件（全体の 25.3%）、次いで「連携推進手法」が 41 件（全体の 24.1%）、「農林水産関連の情報・知識」が 32 件（全体の 18.8%）である。これらは、コーディネーターが連携の推進のために有用となるカリキュラムの内容であると考えられる。また、「事例研究」が 30 件（全体の 17.6%）であり、「コーディネーターの体験談は業務に直接役立つ有用な情報」であり、「成功事例だけでなく失敗事例も取り上げてほしい」との意見がある。農業系の公設試の受講者から、「コーディネーターの資質を習得し、自ら研究しながらコーディネートもできるような考え方を学びたい」との意見が 2 件、「農水コーディネーターが技術相談から事業化へ繋げていく過程での評価ポイントと判断基準の事例的解析」との意見が 1 件ある。

	受講者全体 (n=170)		うち農林水産関連機関 (n=35)	
	件数(件)	構成比(%)	件数(件)	全受講者に占める割合(%)
連携推進手法	41	24.1	8	19.5
コーディネーターの活動・役割	9	5.3	1	11.1
コーディネーターの資質・スキル	43	25.3	10	23.3
農林水産関連の情報・知識	32	18.8	4	12.5
事例研究	30	17.6	8	26.7



注)・農林水産関連機関とは、ここでは、「公設試：農業系」、「公設試：林業系」、「公設試：水産業系」、「農水支援団体」、「普及指導センター」、「農業/林業/漁業組合」のことをさす。  
 ・複数回答であり、上位5項目をあげている。

図 2.3 コーディネート推進コースの受講者の研修に対する要望

## 2.1.2. コーディネート推進コースのプログラム全体の評価

次に、コーディネート推進コースのプログラム全体の評価について、研修終了後のアンケートをもとに考察する

### 【プログラムの全体の印象】

プログラムの全体の印象について、受講者全体でみると、「大変役立った」が48名（全体の38%）、「おおむね役立った」が69名（全体の55%）であり、ほとんどの受講者が「役立った」と評価している（図2.4参照）。地域別にみると、地域に関わらず、多くの受講者が「役立った」と評価している（図2.4参照）。また、所属機関別にみると、所属機関に関わらず、多くの受講者が「役立った」と評価している（図2.5参照）。そして、業務目的別にみると、多くの受講者が「役立った」と評価しているが、「地域における産業創出」、「現場における技術普及」、「起業化・実用化」は他に比べ「どちらともいえない」が多い（図2.6参照）。これは、本研修が研究課題の設定で必要となるスキルの習得を中心としたカリキュラムの内容であったことが要因の一つとして考えられる。

産学連携業務従事状況別にみると、従事している、従事していないに関わらず、「役に立った」と評価している受講者が多い。産学連携業務に携わっている受講者のうち、「どちらともいえない」が携わっていない受講者に比べ多い（図2.7参照）。また、産学連携業務従事者を経験年数にみると、経験年数に関わらず、「役に立った」と評価している（図2.8参照）。

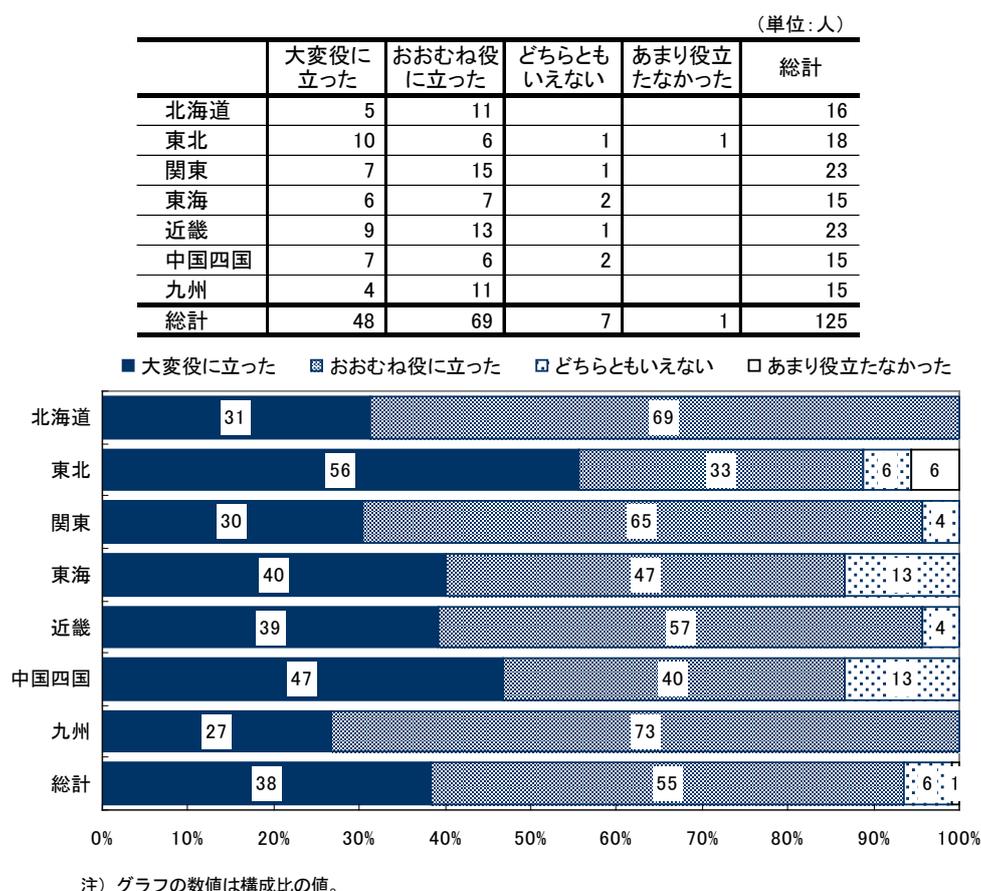
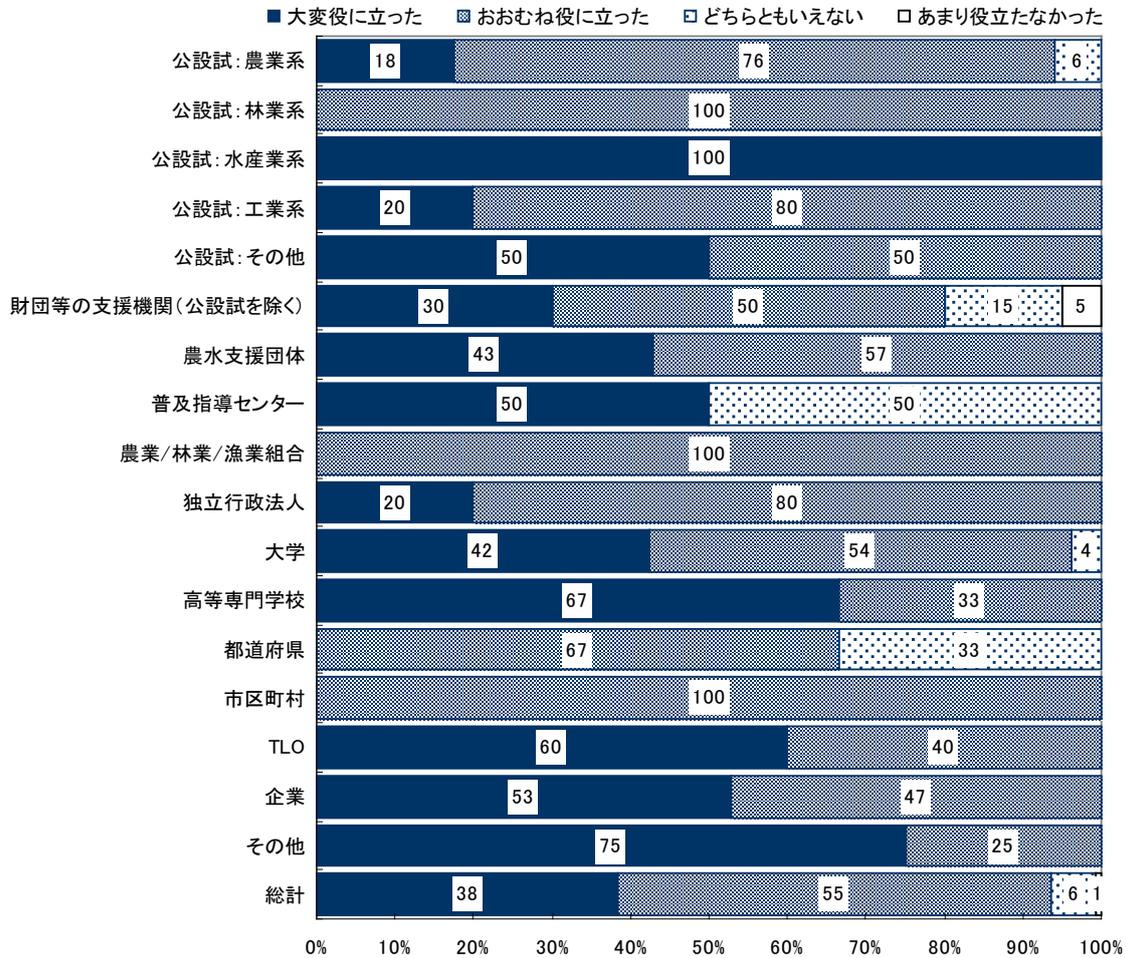


図 2.4 コーディネート推進コースの研修プログラム全体の評価（開催地域別）

(単位:人)

	大変役に立った	おおむね役に立った	どちらともいえない	あまり役立たなかった	総計
公設試:農業系	3	13	1		17
公設試:林業系		1			1
公設試:水産業系	1				1
公設試:工業系	1	4			5
公設試:その他	1	1			2
財団等の支援機関(公設試を除く)	6	10	3	1	20
農水支援団体	3	4			7
普及指導センター	1		1		2
農業/林業/漁業組合		1			1
独立行政法人	1	4			5
大学	11	14	1		26
高等専門学校	2	1			3
都道府県		2	1		3
市区町村		2			2
TLO	3	2			5
企業	9	8			17
その他	6	2			8
総計	48	69	7	1	125

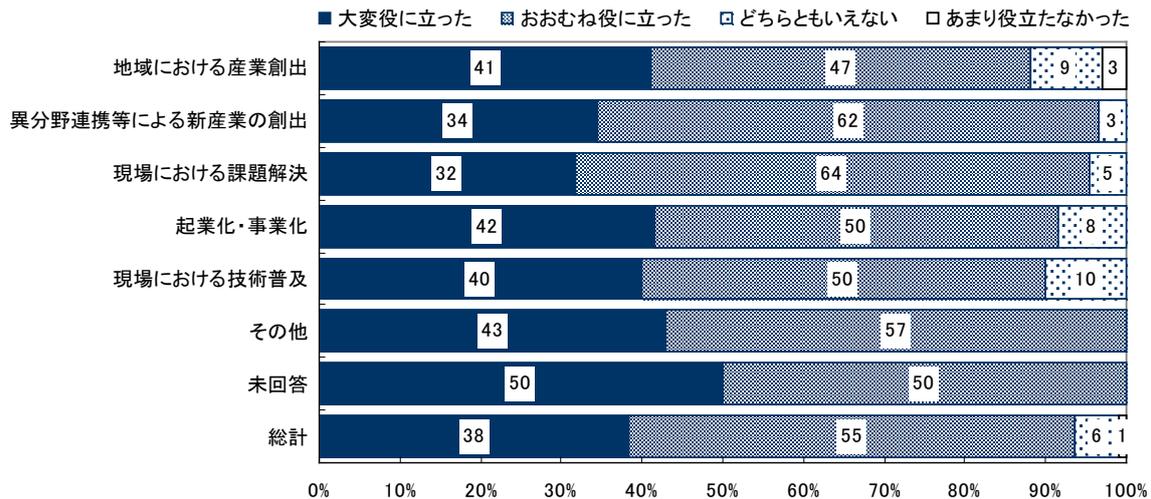


注)・公設試:農林水産系は、農業系に分類している。  
 ・グラフの数値は構成比の値。

図 2.5 コーディネート推進コースの研修プログラム全体の評価 (所属機関別)

(単位:人)

	大変役に立った	おおむね役に立った	どちらともいえない	あまり役立たなかった	総計
地域における産業創出	14	16	3	1	34
異分野連携等による新産業の創出	10	18	1		29
現場における課題解決	7	14	1		22
起業化・事業化	5	6	1		12
現場における技術普及	4	5	1		10
その他	6	8			14
未回答	2	2			4
総計	48	69	7	1	125

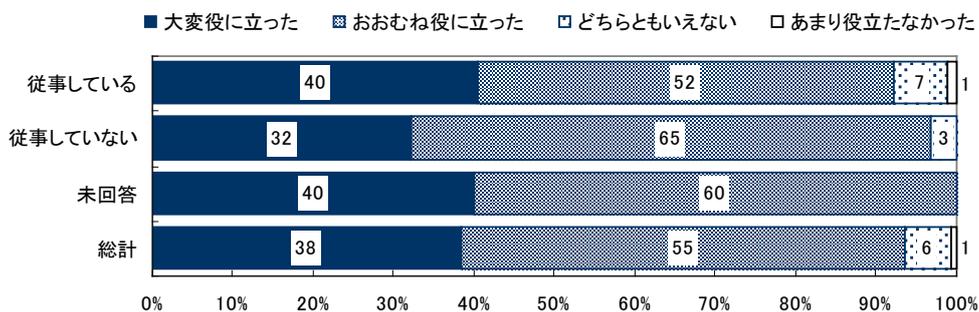


注) グラフの数値は構成比の値。

図 2.6 コーディネート推進コースの研修プログラム全体の評価 (業務目的別)

(単位:人)

	大変役に立った	おおむね役に立った	どちらともいえない	あまり役立たなかった	総計
従事している	36	46	6	1	89
従事していない	10	20	1		31
未回答	2	3			5
総計	48	69	7	1	125

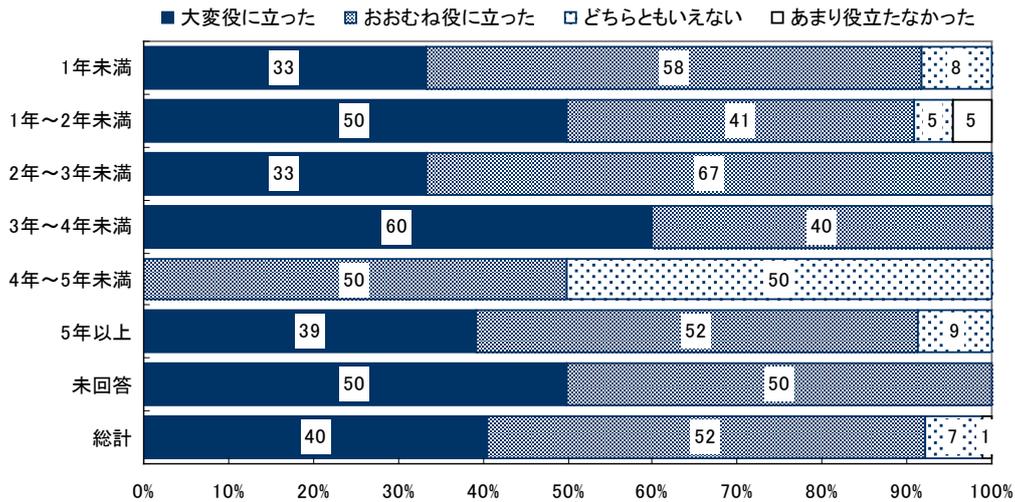


注) グラフの数値は構成比の値。

図 2.7 コーディネート推進コースの研修プログラム全体の評価 (産学連携業務従事状況別)

(単位:人)

	大変役に立った	おおむね役に立った	どちらともいえない	あまり役立たなかった	総計
1年未満	8	14	2		24
1年～2年未満	11	9	1	1	22
2年～3年未満	3	6			9
3年～4年未満	3	2			5
4年～5年未満		1	1		2
5年以上	9	12	2		23
未回答	2	2			4
総計	36	46	6	1	89



注) グラフの数値は構成比の値。

図 2.8 コーディネート推進コースの研修プログラム全体の評価 (産学連携業務従事経験年数別)

プログラム全体の評価が高い要因について、良かった点や研修から気づいた点をみると、「コーディネーターの資質・スキルの習得・向上ができた」が31件と最も多く、次いで「コーディネーターの役割・活動が理解できた」が28件、「分析ツール・評価手法の習得・強化ができた」が27件である(図 2.9 参照)。これらは、受講者の研修受講前の意識として多かった「産学連携の推進のためのコーディネーターの要件」に対して適切なカリキュラムの内容を提供でき、本研修の目的が達成できたといえる<sup>2</sup>。また、「人脈づくりができた」が60件、「さまざまな立場の考え方を知ることができた」が21件であり、本研修が受講者相互の知識や活動の共有、補完の場に大きく寄与したといえる<sup>3</sup>。

<sup>2</sup> カリキュラムの内容について、「2.1.3 コーディネート推進コースのカリキュラムの内容の評価」において個別に評価している。

<sup>3</sup> 人的ネットワークの形成の状況について、「3.3 人的ネットワークの形成」にその詳細を考察している。

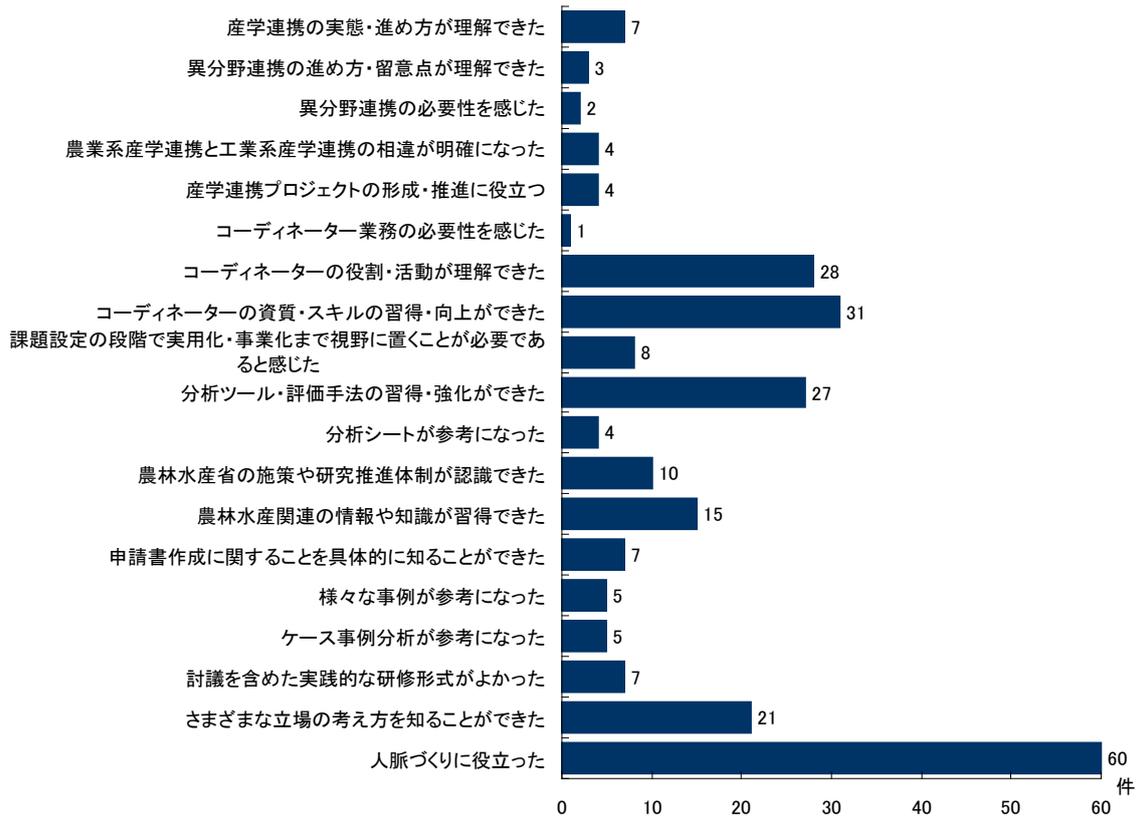


図 2.9 コーディネート推進コースの研修プログラムの良かった点・研修から気づいた点

### 【スキルの習得】

コーディネーター人材育成研修では、農林水産・食品産業分野において産学連携を支援する人材が、(1) 生産現場や産業界、社会におけるニーズから課題や要望を想定するスキル（以下、「スキル1」という）、(2) 技術シーズとのマッチングにより研究課題を設定するために必要となる基礎的なスキル（以下、「スキル2」という）、の習得を目的とした。

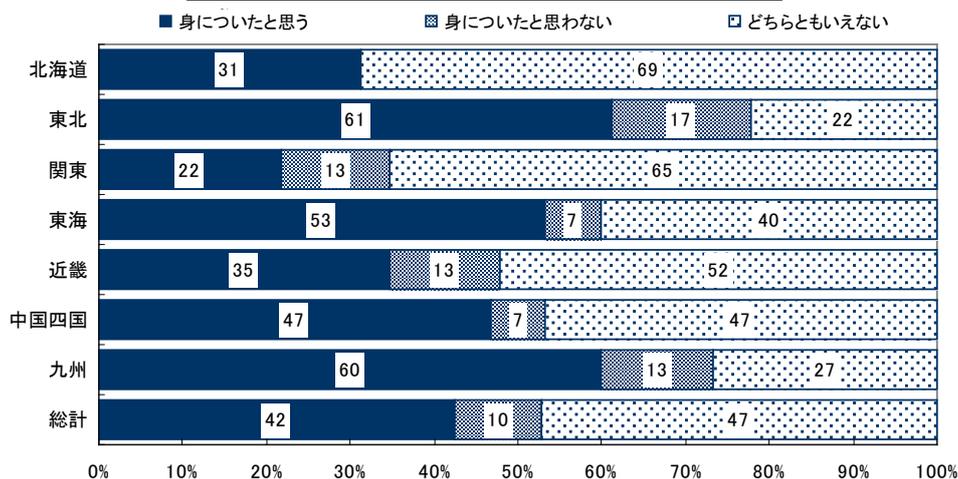
スキル1について、受講者全体でみると、「どちらともいえない」が59名（全体の47%）、「身についたと思う」が53名（全体の42%）であり、地域別にみると、スキル1について、「東北」、「東海」、「九州」が「身についたと思う」と回答した受講者が比較的多い（図 2.10 参照）。また、スキル2について、受講者全体でみると、「どちらともいえない」が66名（全体の54%）、「身についたと思う」が44名（全体の36%）であり、地域別にみると、「東北」、「九州」が「身についたと思う」と回答した受講者が比較的多い（図 2.11 参照）。

また、所属機関別にみると、スキル1について、「公設試：水産業系」、「公設試：その他」、「農水支援団体」、「普及指導センター」、「高等専門学校」、「TLO」が「身についたと思う」と回答した受講者が比較的多い（図 2.12 参照）。スキル2について、「公設試：その他」、「農水支援団体」「TLO」が「身についたと思う」と回答した受講者が比較的多い（図 2.13 参照）。

また、業務目的別にみると、スキル1について、「現場における技術普及」が「身についたと思う」と回答した受講者が比較的多い（図 2.14 参照）。スキル2について、「起業化・実業家」が「身についたと思う」と回答した受講者が比較的多い（図 2.15 参照）。

(単位:人)

	身についた と思う	身についた と思わない	どちらとも いえない	総計
北海道	5		11	16
東北	11	3	4	18
関東	5	3	15	23
東海	8	1	6	15
近畿	8	3	12	23
中国四国	7	1	7	15
九州	9	2	4	15
総計	53	13	59	125

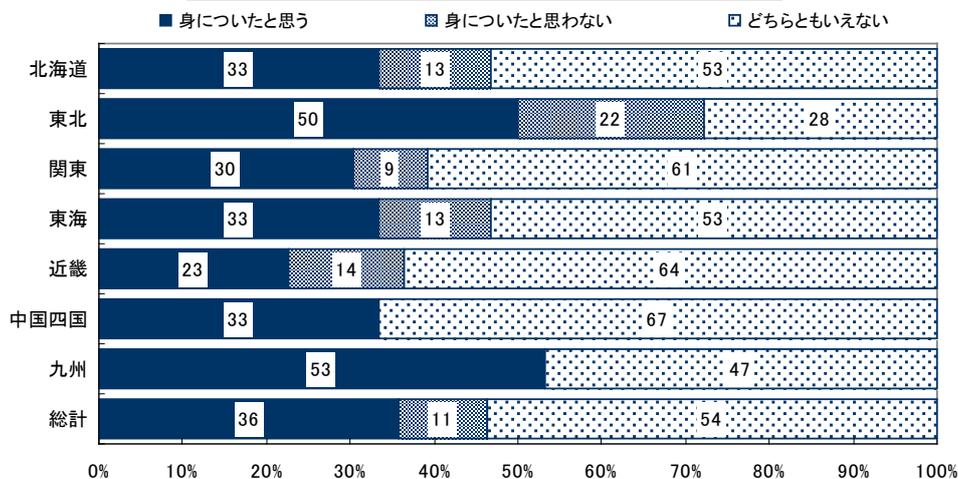


注) グラフの数値は構成比の値。

図 2.10 コーディネート推進コースのスキル1の習得状況(開催地域別)

(単位:人)

	身についた と思う	身についた と思わない	どちらとも いえない	総計
北海道	5	2	8	15
東北	9	4	5	18
関東	7	2	14	23
東海	5	2	8	15
近畿	5	3	14	22
中国四国	5		10	15
九州	8		7	15
総計	44	13	66	123

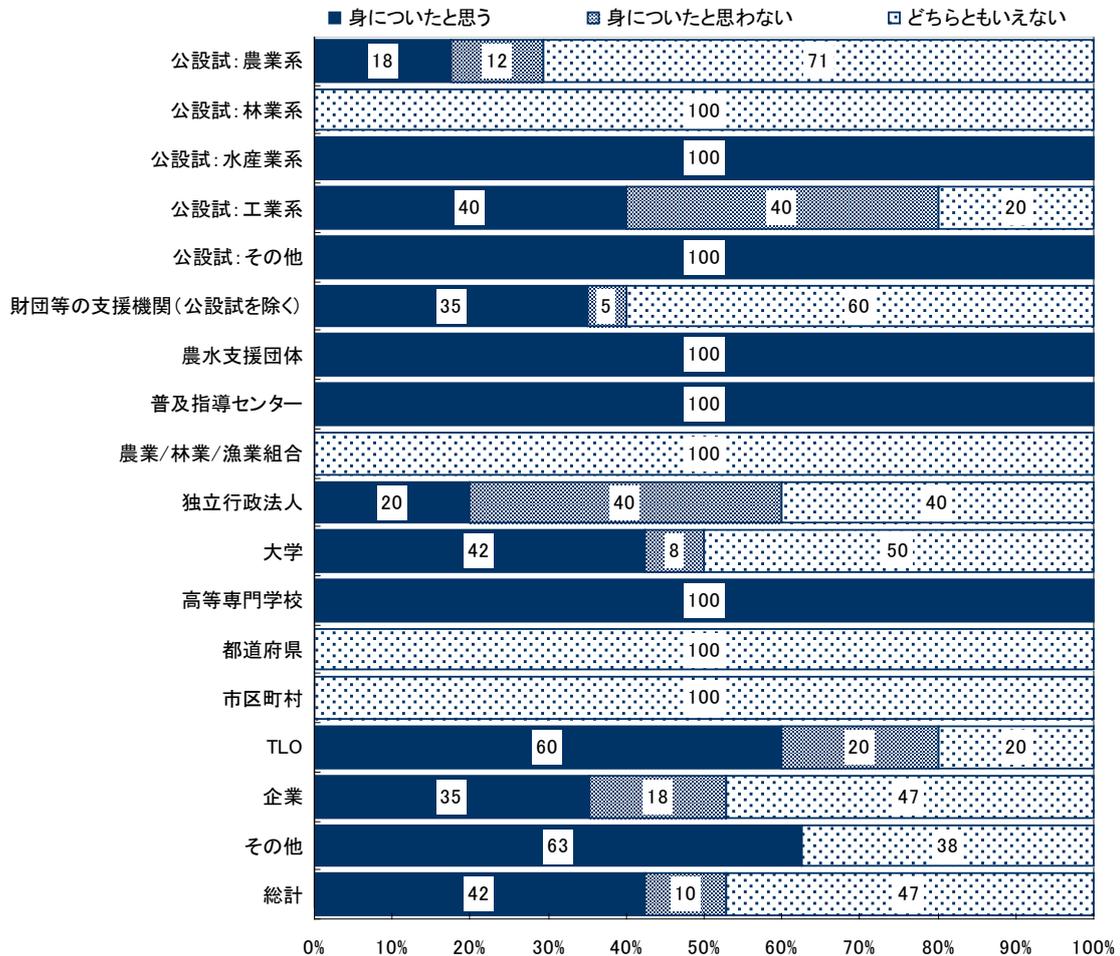


注) グラフの数値は構成比の値。

図 2.11 コーディネート推進コースのスキル2の習得状況(開催地域別)

(単位:人)

	身についた と思う	身についた と思わない	どちらとも いえない	総計
公設試:農業系	3	2	12	17
公設試:林業系			1	1
公設試:水産業系	1			1
公設試:工業系	2	2	1	5
公設試:その他	2			2
財団等の支援機関(公設試を除く)	7	1	12	20
農水支援団体	7			7
普及指導センター	2			2
農業/林業/漁業組合			1	1
独立行政法人	1	2	2	5
大学	11	2	13	26
高等専門学校	3			3
都道府県			3	3
市区町村			2	2
TLO	3	1	1	5
企業	6	3	8	17
その他	5		3	8
総計	53	13	59	125

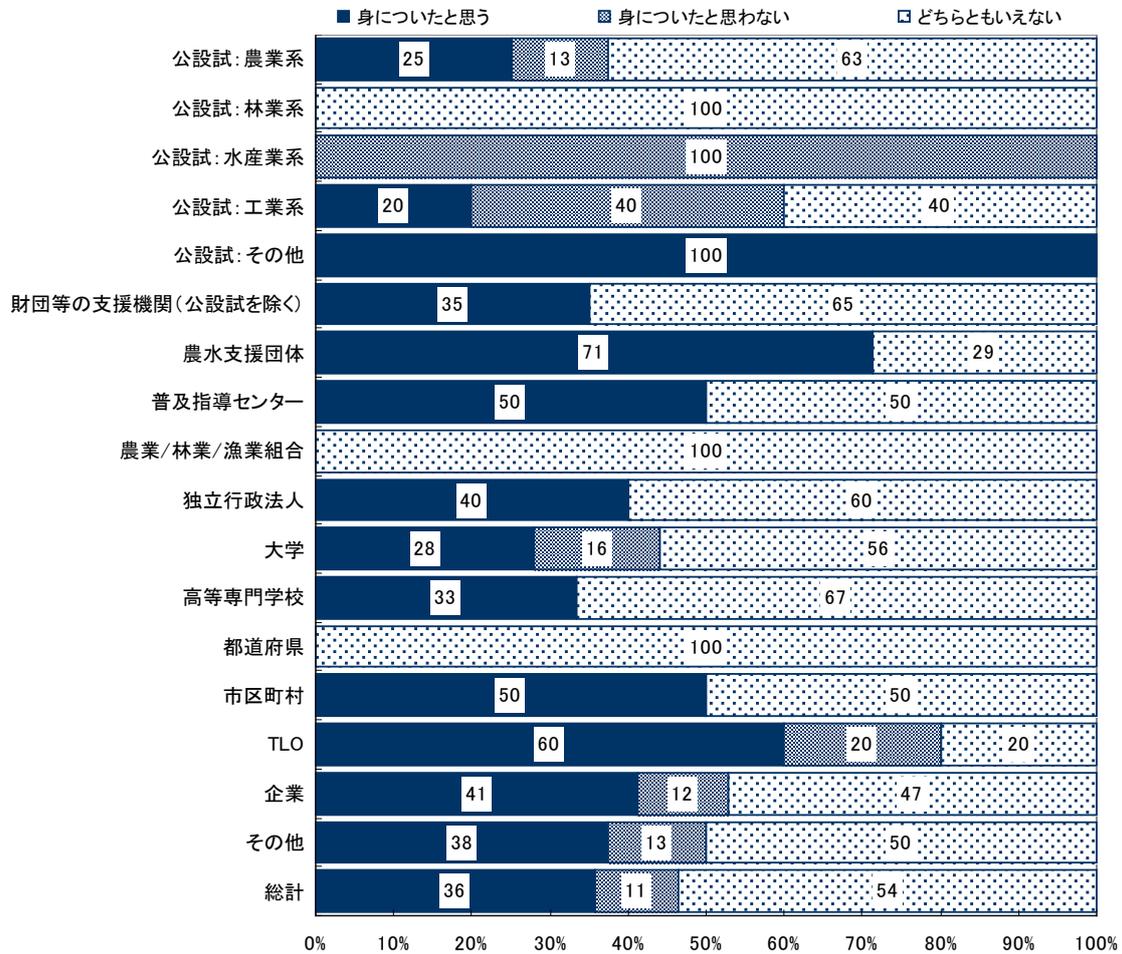


注)・公設試:農林水産系は、農業系に分類している。  
 ・グラフの数値は構成比の値。

図 2.12 コーディネート推進コースのスキル1の習得状況(所属機関別)

(単位:人)

	身についた と思う	身についた と思わない	どちらとも いえない	総計
公設試:農業系	4	2	10	16
公設試:林業系			1	1
公設試:水産業系		1		1
公設試:工業系	1	2	2	5
公設試:その他	2			2
財団等の支援機関(公設試を除く)	7		13	20
農水支援団体	5		2	7
普及指導センター	1		1	2
農業/林業/漁業組合			1	1
独立行政法人	2		3	5
大学	7	4	14	25
高等専門学校	1		2	3
都道府県			3	3
市区町村	1		1	2
TLO	3	1	1	5
企業	7	2	8	17
その他	3	1	4	8
総計	44	13	66	123

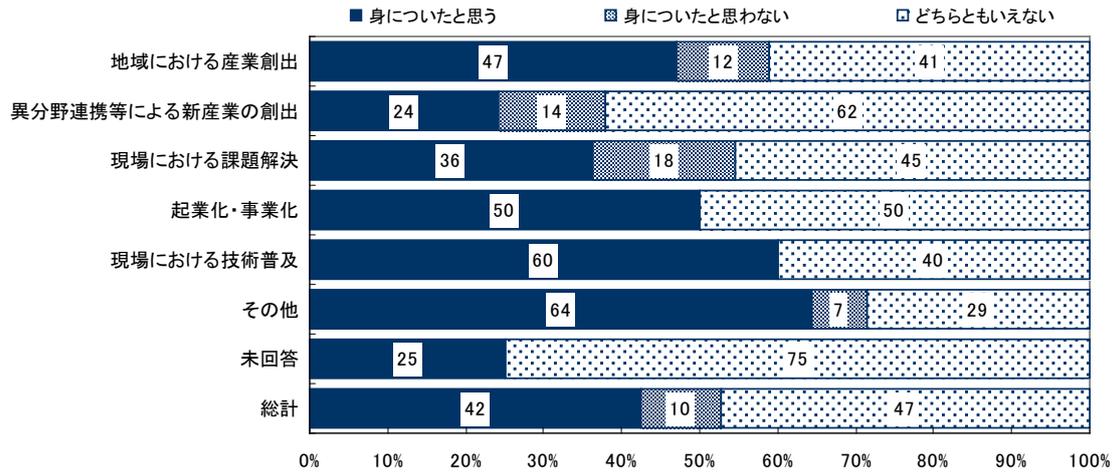


注)・公設試:農林水産系は、農業系に分類している。  
 ・グラフの数値は構成比の値。

図 2.13 コーディネート推進コースのスキル2の習得状況(所属機関別)

(単位:人)

	身についた と思う	身についた と思わない	どちらとも いえない	総計
地域における産業創出	16	4	14	34
異分野連携等による新産業の創出	7	4	18	29
現場における課題解決	8	4	10	22
起業化・事業化	6		6	12
現場における技術普及	6		4	10
その他	9	1	4	14
未回答	1		3	4
総計	53	13	59	125

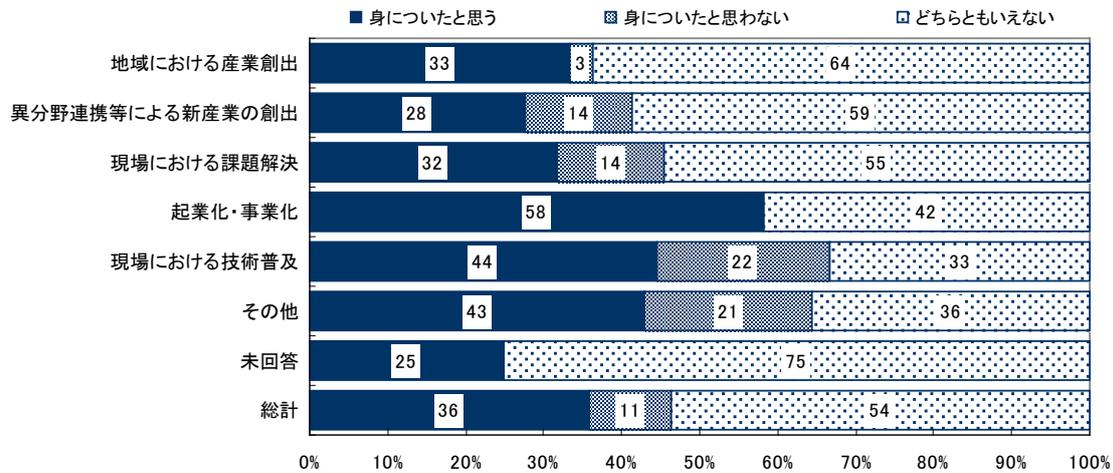


注) グラフの数値は構成比の値。

図 2.14 コーディネート推進コースのスキル1の習得状況(業務目的別)

(単位:人)

	身についた と思う	身についた と思わない	どちらとも いえない	総計
地域における産業創出	11	1	21	33
異分野連携等による新産業の創出	8	4	17	29
現場における課題解決	7	3	12	22
起業化・事業化	7		5	12
現場における技術普及	4	2	3	9
その他	6	3	5	14
未回答	1		3	4
総計	44	13	66	123



注) グラフの数値は構成比の値。

図 2.15 コーディネート推進コースのスキル2の習得状況(業務目的別)

産学連携業務従事状況別にみると、スキル1については、産学連携業務に携わっている受講者は「身についたと思う」の回答がわずかに多いが、産学連携業務に携わっていない受講者は「どちらともいえない」の回答が多い（図2.16参照）。また、産学連携業務従事者を経験年数にみると、「身についたと思う」の回答が最も多いのが「3年～4年未満」、次いで「2年～3年未満」であり比較的経験年数が少ない受講者で習得状況が高い（図2.17参照）。スキル2については、従事している、従事していないに関わらず、「どちらともいえない」が多く（図2.18参照）、産学連携業務従事者を経験年数にみると、経験年数に関わらず「どちらともいえない」の回答が最も多い（図2.19参照）。

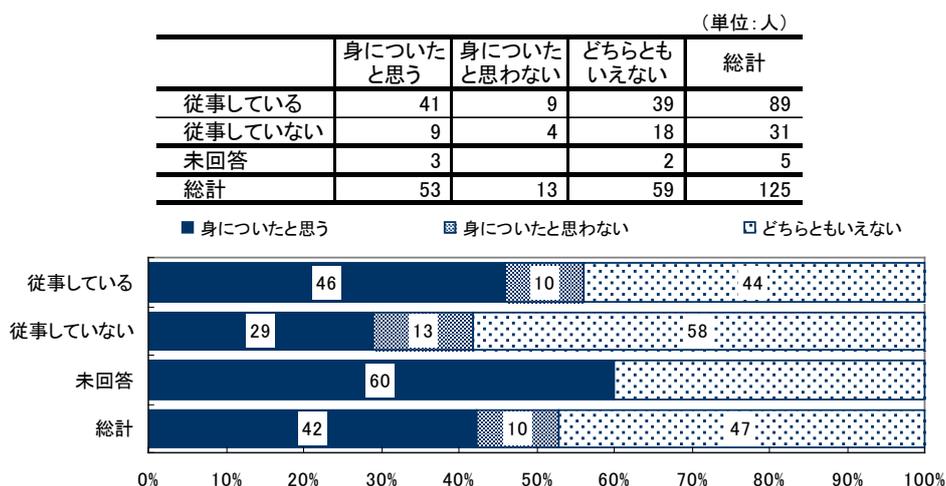


図 2.16 コーディネート推進コースのスキル1の習得状況（産学連携業務従事状況別）

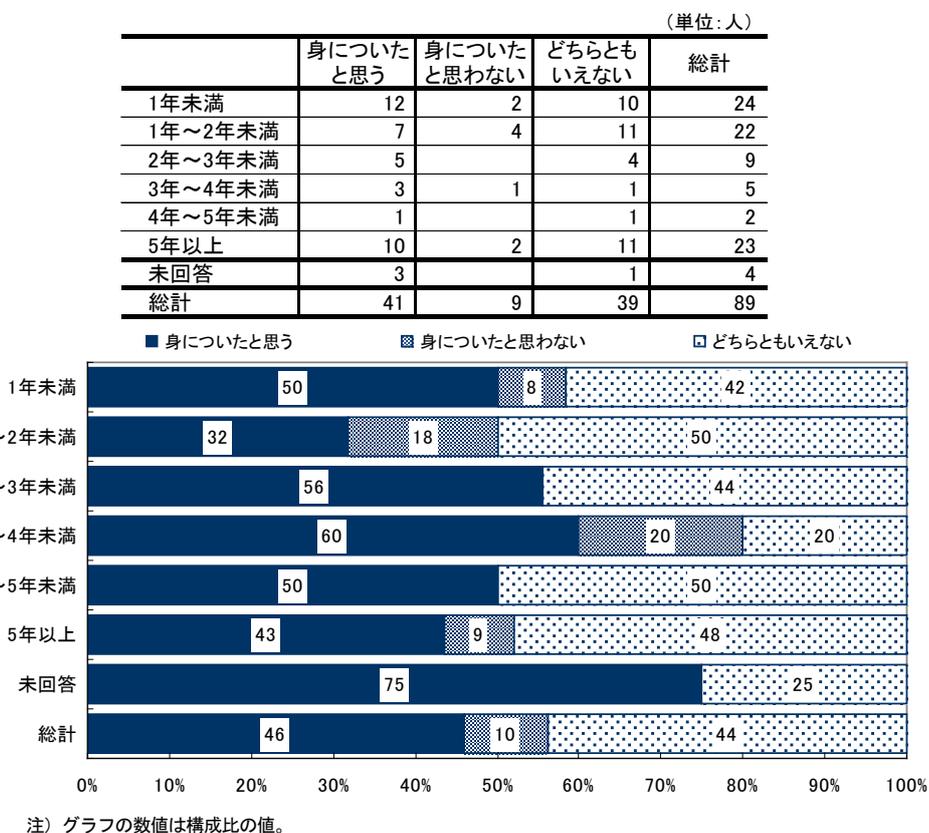


図 2.17 コーディネート推進コースのスキル1の習得状況（産学連携業務従事経験年数別）

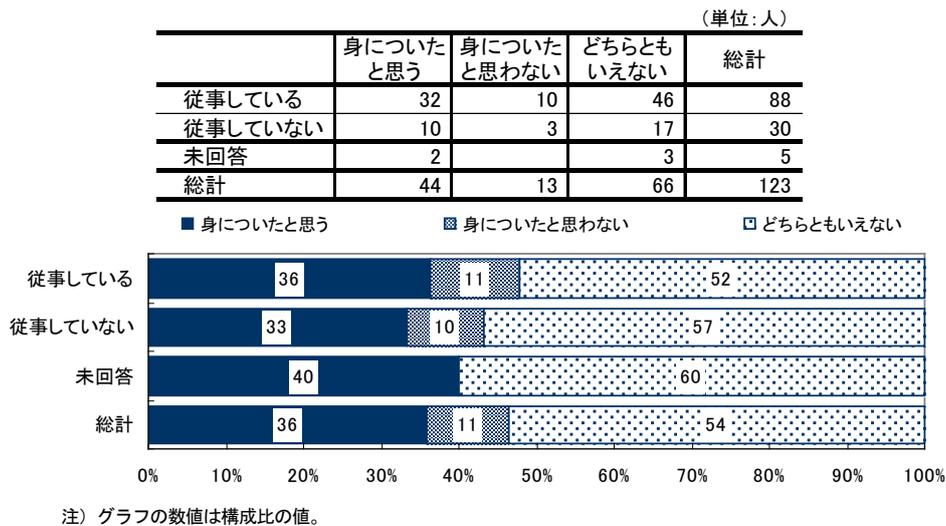


図 2.18 コーディネート推進コースのスキル2の習得状況 (産学連携業務従事者別)

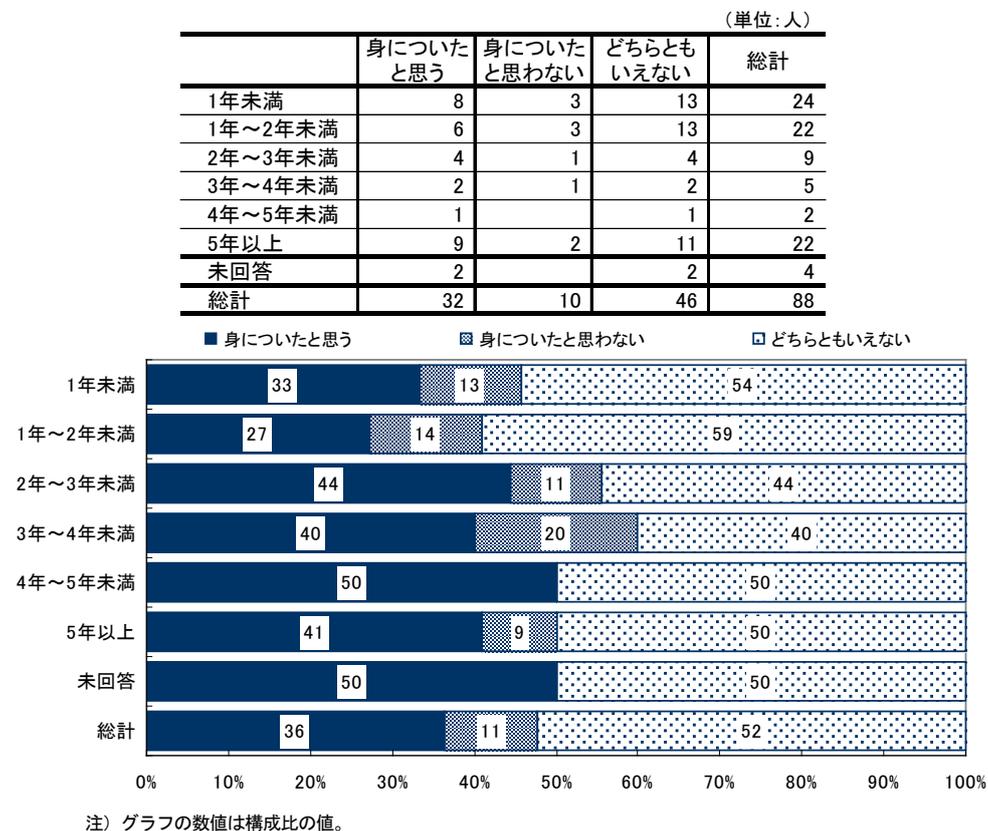


図 2.19 コーディネート推進コースのスキル2の習得状況 (産学連携業務従事経験年数別)

このように、スキルの習得について、受講者全体で見ると、スキル1、スキル2とも「どちらともいえない」の回答が「身についたと思う」に比べ高かった。スキルの習得状況の回答理由をみると、「スキルは実践しないと身につかない」とするも「基本的な考え方は理解できた」との回答が多く、スキルの習得は受講者の主観に拠っていることが分かる(図2.20、図2.21参照)。また、「2日間では時間が短かったため」や「具体的な方法・活用法が理解できなかった」といったカリキュラムの時間割や内容が十分でなかったことが指摘されている。

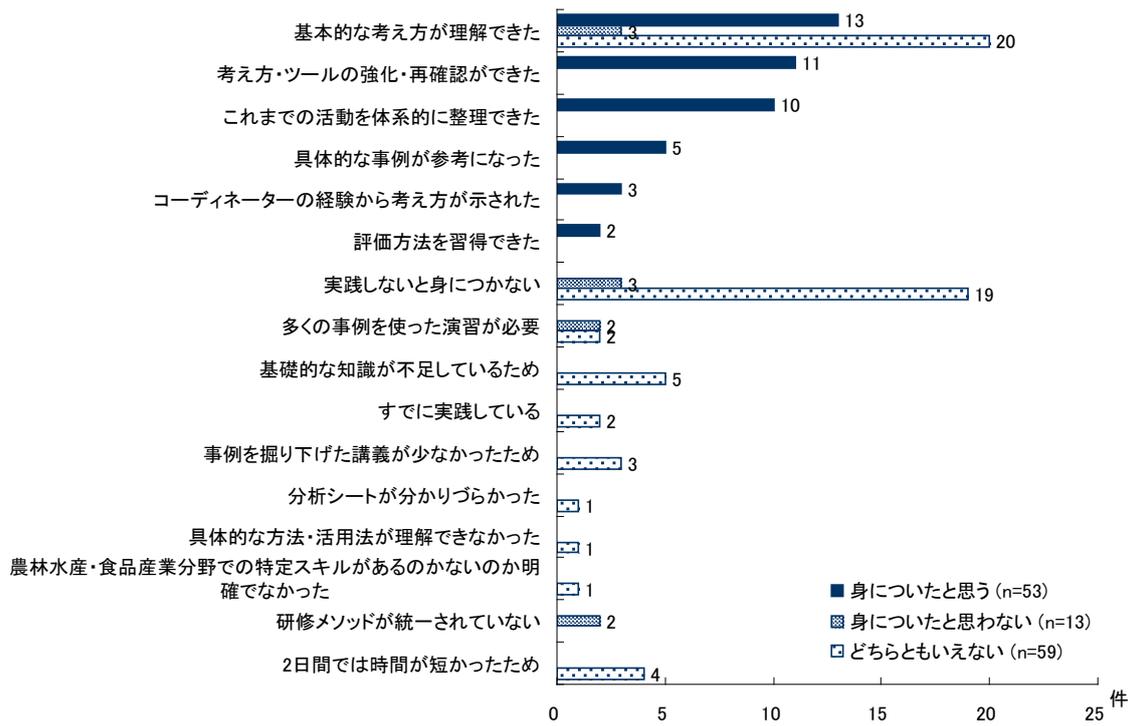


図 2.20 コーディネート推進コースのスキル1の習得おける回答理由

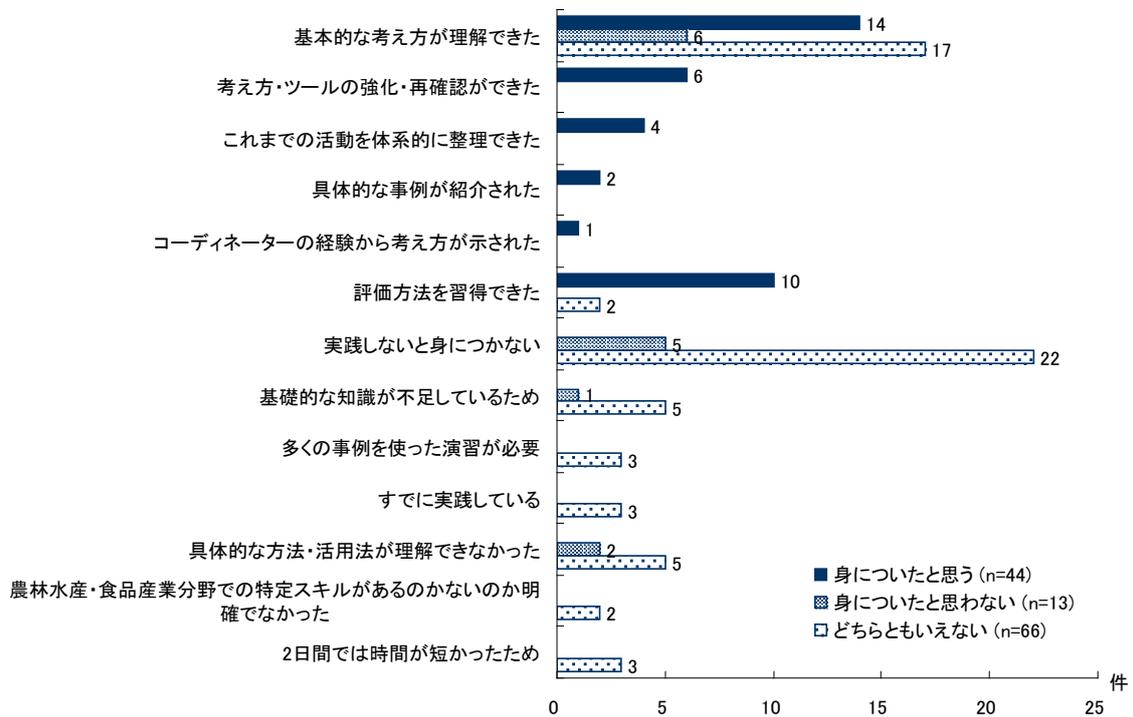
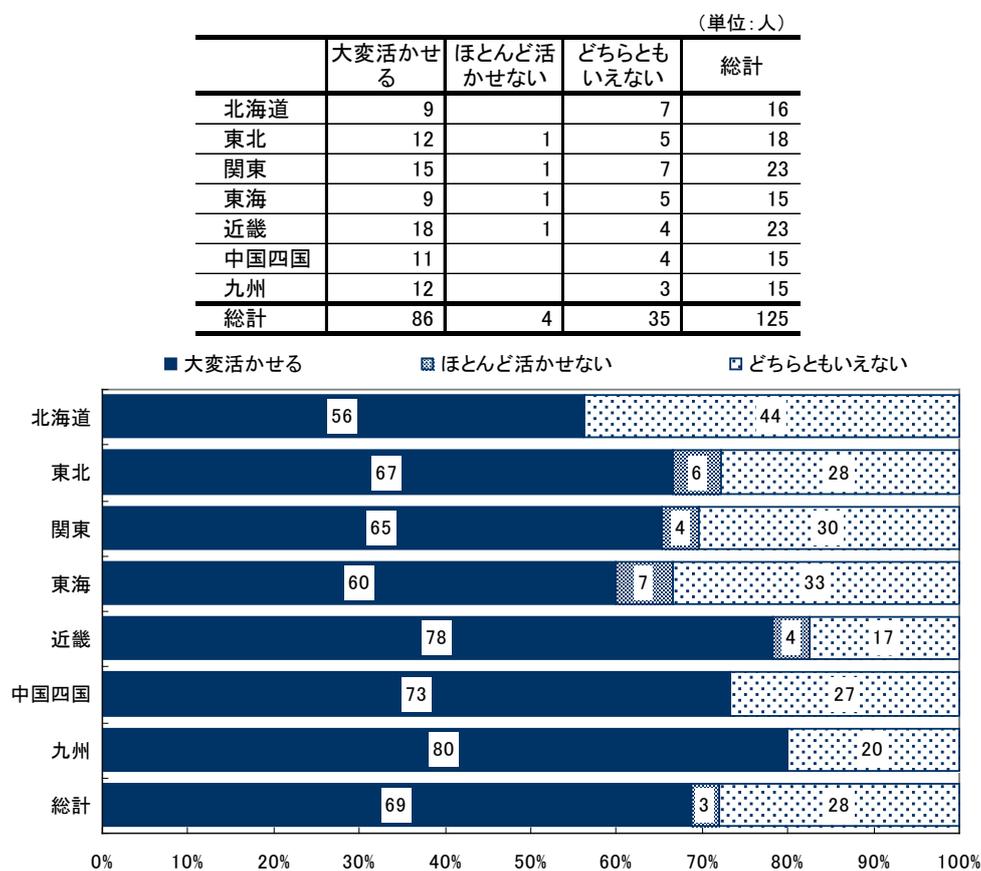


図 2.21 コーディネート推進コースのスキル2の習得における回答理由

## 【今後の業務への活用】

コーディネート推進コースの今後の業務への活用について、受講者全体でみると、「大変活かせる」が86名(全体の69%)であり、多くの受講者が今後の業務に役立つと評価している(図2.22参照)。地域別にみると、全ての地域で「大変活かせる」の回答が最も多く、その割合が特に大きいのは「近畿」、「九州」である(図2.22参照)。また、所属機関別にみると、「大変活かせる」の回答が最も多く、その割合が特に大きいのは「公設試：その他」、「大学」、「高等専門学校」、「企業」である(図2.23参照)。そして、業務目的別では、すべての業務目的で「大変活かせる」の回答が最も多く、その割合が特に大きいのは「起業化・事業家」がである。(図2.24参照)。

産学連携業務従事状況別にみると、従事している、従事していないに関わらず、「大変活かせる」の回答が最も多い(図2.25参照)。また、産学連携業務従事者を経験年数にみると、「大変活かせる」の回答が最も多く統計的に差がみられるといえるのは、「1年～2年未満」、「5年以上」であり、経験年数に関わらず、今後の業務への活用が期待できる(図2.26参照)。

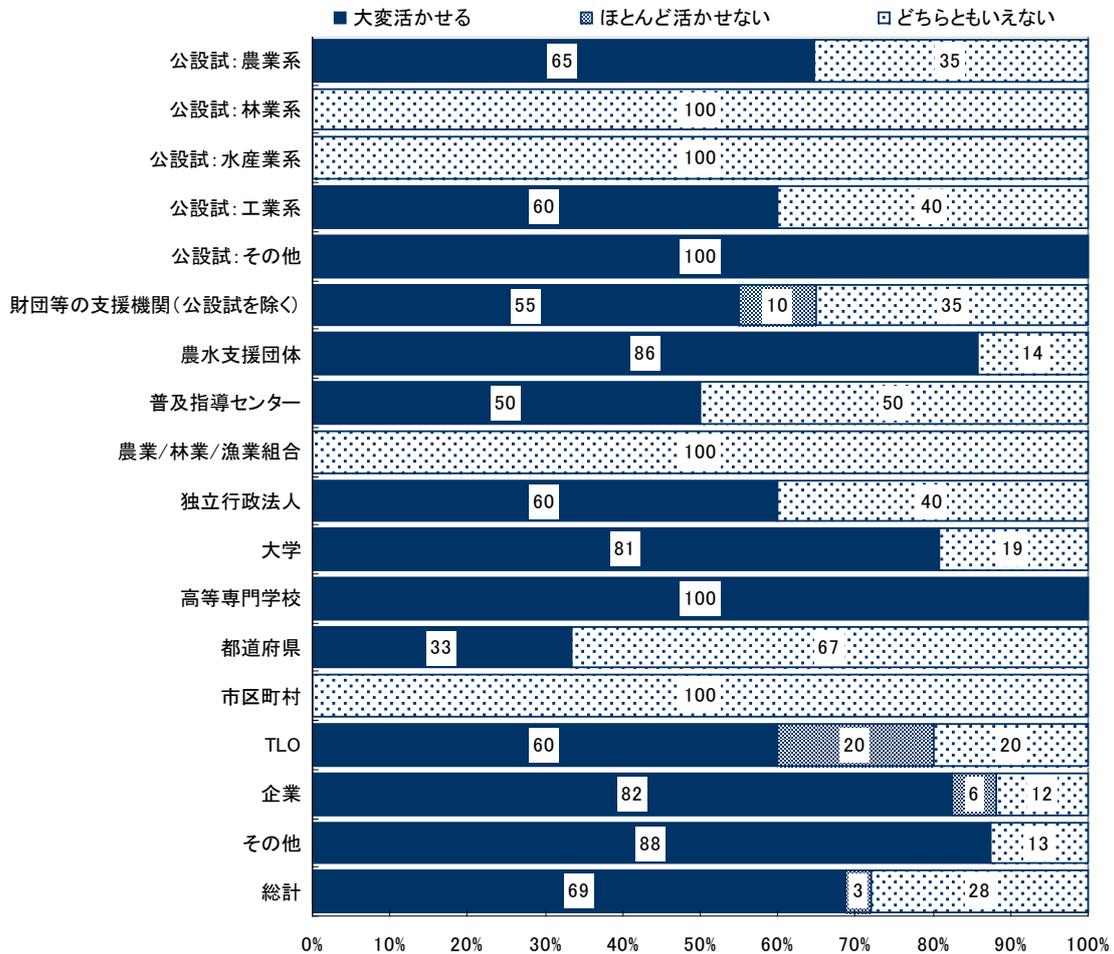


注) グラフの数値は構成比の値。

図 2.22 コーディネート推進コースの業務への活用 (開催地域別)

(単位:人)

	大変活かせる	ほとんど活かさない	どちらともいえない	総計
公設試:農業系	11		6	17
公設試:林業系			1	1
公設試:水産業系			1	1
公設試:工業系	3		2	5
公設試:その他	2			2
財団等の支援機関(公設試を除く)	11	2	7	20
農水支援団体	6		1	7
普及指導センター	1		1	2
農業/林業/漁業組合			1	1
独立行政法人	3		2	5
大学	21		5	26
高等専門学校	3			3
都道府県	1		2	3
市区町村			2	2
TLO	3	1	1	5
企業	14	1	2	17
その他	7		1	8
総計	86	4	35	125

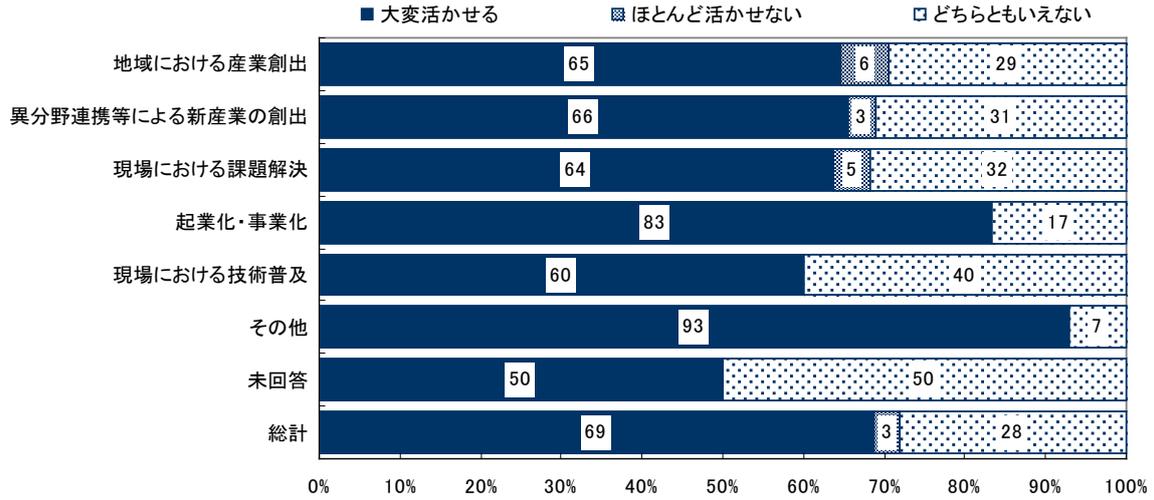


注)・公設試:農林水産系は、農業系に分類している。  
 ・グラフの数値は構成比の値。

図 2.23 コーディネート推進コースの業務への活用(所属機関別)

(単位:人)

	大変活かせる	ほとんど活かさない	どちらともいえない	総計
地域における産業創出	22	2	10	34
異分野連携等による新産業の創出	19	1	9	29
現場における課題解決	14	1	7	22
起業化・事業化	10		2	12
現場における技術普及	6		4	10
その他	13		1	14
未回答	2		2	4
総計	86	4	35	125

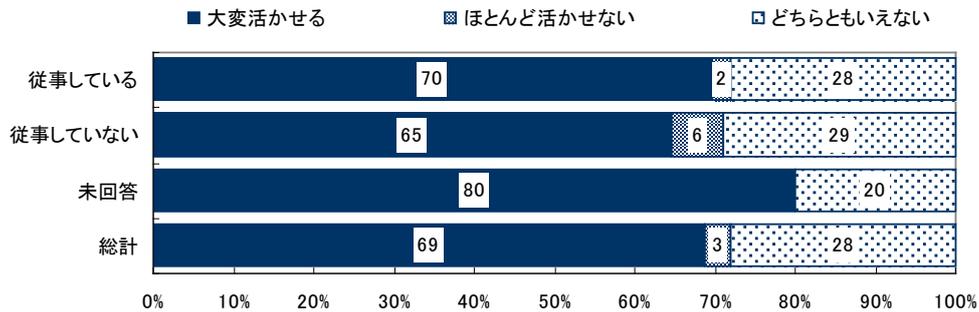


注) グラフの数値は構成比の値。

図 2.24 コーディネート推進コースの業務への活用 (業務目的別)

(単位:人)

	大変活かせる	ほとんど活かさない	どちらともいえない	総計
従事している	62	2	25	89
従事していない	20	2	9	31
未回答	4		1	5
総計	86	4	35	125

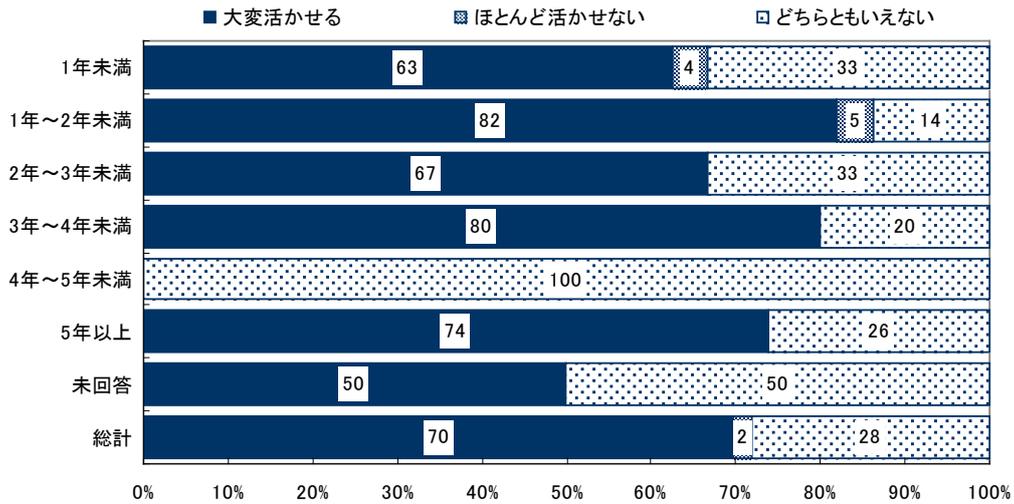


注) グラフの数値は構成比の値。

図 2.25 コーディネート推進コースの業務への活用 (産学連携業務従事状況別)

(単位:人)

	大変活かせる	ほとんど活かさない	どちらともいえない	総計
1年未満	15	1	8	24
1年～2年未満	18	1	3	22
2年～3年未満	6		3	9
3年～4年未満	4		1	5
4年～5年未満			2	2
5年以上	17		6	23
未回答	2		2	4
総計	62	2	25	89



注) グラフの数値は構成比の値。

図 2.26 コーディネート推進コースの業務への活用 (産学連携業務従事経験年数別)

このように、コーディネート推進コースの「今後の業務への活用」について、受講者全体で見ると、「大変活かせる」が全体の約 70%であり、多くの受講者が今後の業務に役立つと評価しているが、先に示した「プログラム全体の評価」に比べ「どちらともいえない」の回答が多かった。その要因について、研修プログラムの工夫が必要な点や要望をみると、「具体的な農水コーディネーターの活動事例を多く紹介してほしい」が 17 件と最も多く、次いで「評価手法についてより具体的な事例を使って解説してほしい」が 16 件、「分析シートの活用法について詳細に説明してほしい」が 10 件、「評価手法について農林水産分野の場合の活用法を説明してほしい」、「農林水産関連の事例の概観と解説がほしい」がそれぞれ 9 件である (図 2.27 参照)。これらの事項から、受講者の研修への要望が多かった「事例研究」に対し、本研修では受講者にとって業務で直面する課題解決に有効となる事例の紹介が多くなされなかったことが見出せた。

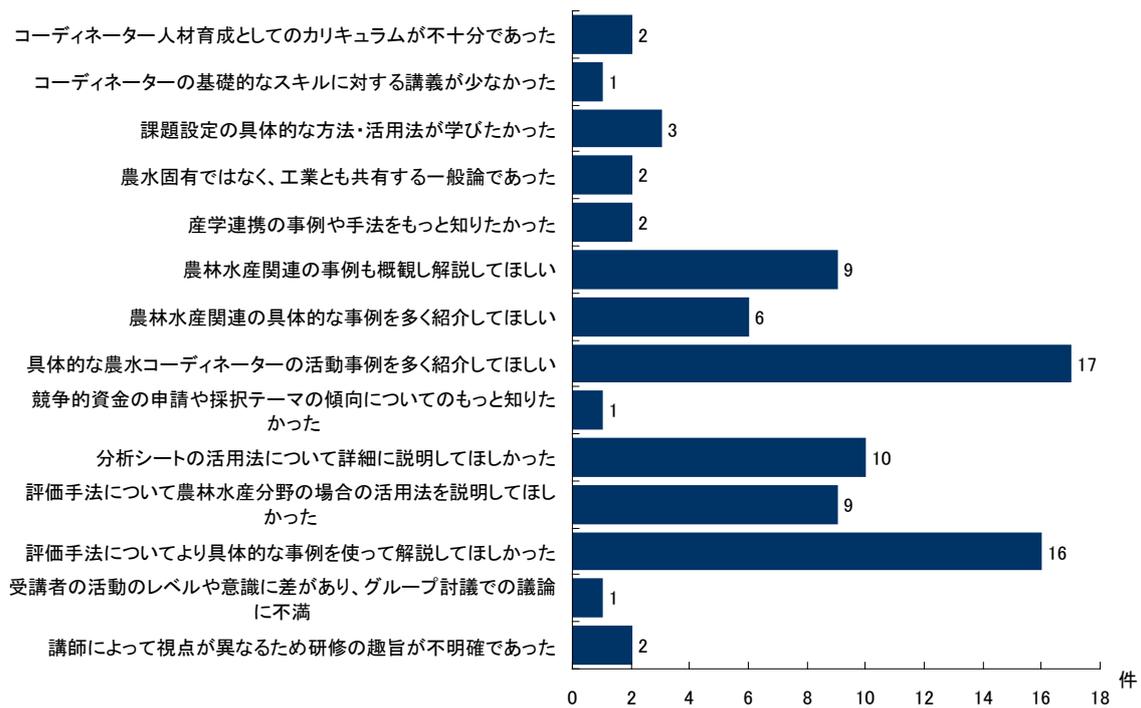


図 2.27 コーディネート推進コースの研修プログラムの工夫が必要な点・要望

### 2.1.3. コーディネート推進コースのカリキュラムの内容の評価

コーディネート推進コースのカリキュラムの内容について、研修後のアンケートから、プログラム順に個別に評価をみる。

#### 【講演 1】

【プログラム】 農林水産分野における技術政策および研究の現状  
 【講師】 農林水産省農林水産技術会議事務局 研究推進課 産学連携室  
 【研修のポイント】 「農林水産研究基本計画」における重点目標と研究の現状、現在の事業内容を知る

講演 1 の研修のポイントについて、「理解できた」の回答が 103 名（全体の 88%）であり、おおむね受講者の理解は高く、「農林水産省の施策や研究推進体制が認識できた」との意見が多くあった（図 2.28 参照）。

講師のインストラクションについて、「分かりやすかった」の回答が 95 名（全体の 81%）であり、説明は簡潔で分かりやすいものだったといえる（図 2.29 参照）。内容について、「政策や現状についての国側の分析結果」や「農業の将来性」についても触れてほしかったとの要望があった。また、配布資料については、「資料が細かく、要点をまとめたものと事例などの資料と分けたほうがよい」との意見があった。

カリキュラムの時間について、「質疑の時間が短かった」との意見があった。

今後の業務への活用について、「大変活かせる」の回答が 90 名（全体の 77%）であり、講演 1 の内容の評価が高く、今後の業務への活用が期待できる（図 2.30 参照）。

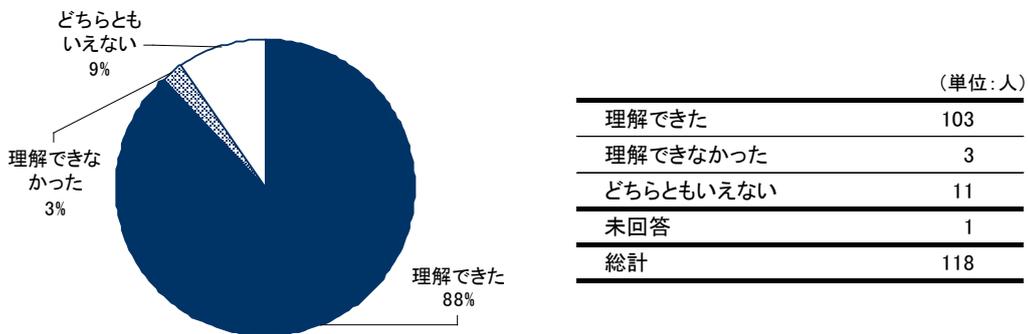


図 2.28 コーディネート推進コース：講演 1 の研修のポイントの理解

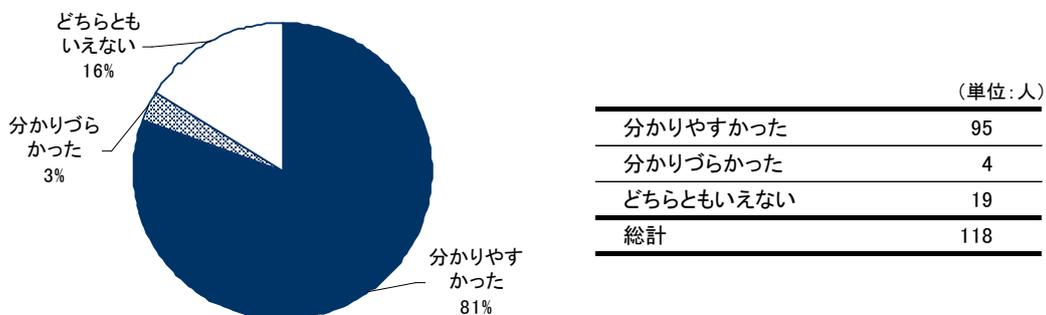


図 2.29 コーディネート推進コース：講演 1 の講師のインストラクション

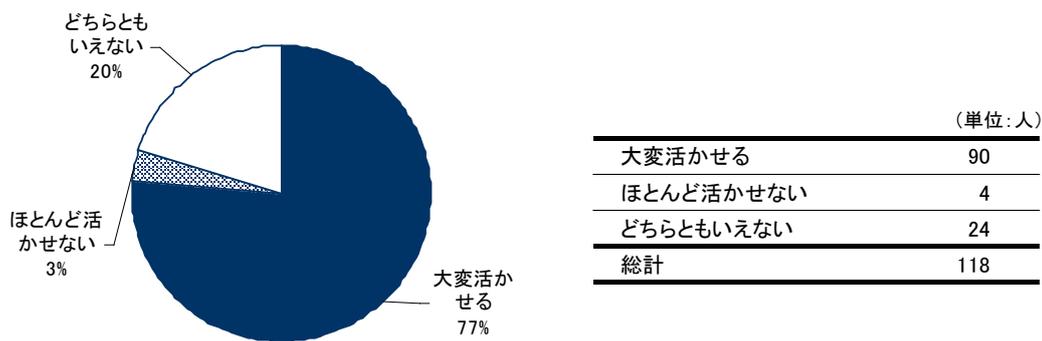


図 2.30 コーディネート推進コース：講演1の今後の業務への活用

【講義・討議1】

【プログラム】 農林水産系コーディネーターに求める視点  
 【講師】 NPO法人グリーンテクノバンク 事務局長 八戸 三千男 氏 (北海道)  
 NPO法人近畿アグリハイテク 事務局長・農水コーディネーター 北村 實彬 氏  
 (北海道を除く6地域)  
 【研修のポイント】 「農林水産研究基本計画」における重点目標と研究の現状、現在の事業内容を知る

講義・討議1の研修のポイントについて、「理解できた」の回答が109名(全体の90%)であり、おおむね受講者の理解は高く、「農林水産関連の情報や知識が習得できた」、「コーディネーターに求められる要件が理解できた」との意見が多かった(図2.31参照)。

講師のインストラクションについて、「分かりやすかった」の回答が110名(全体の91%)であり、説明は簡潔で分かりやすいものだったといえる(図2.32参照)。内容について、「農水コーディネーターとして携わってきた経験から成功事例、失敗事例の紹介」について具体的な話が聞きたいとの要望が多くあった。

今後の業務への活用について、「大変活かせる」の回答が94名(全体の77%)であり、講義・討議1の内容の評価が高く、今後の業務への活用が期待できる(図2.33参照)。

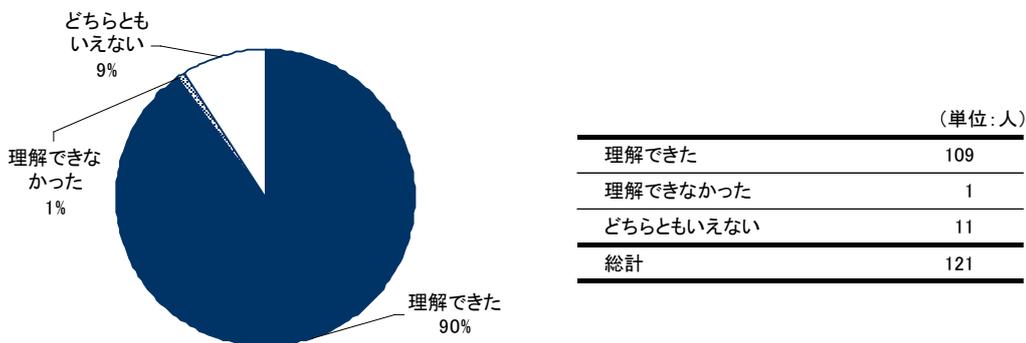


図 2.31 コーディネート推進コース：講義・討議1の研修のポイントの理解

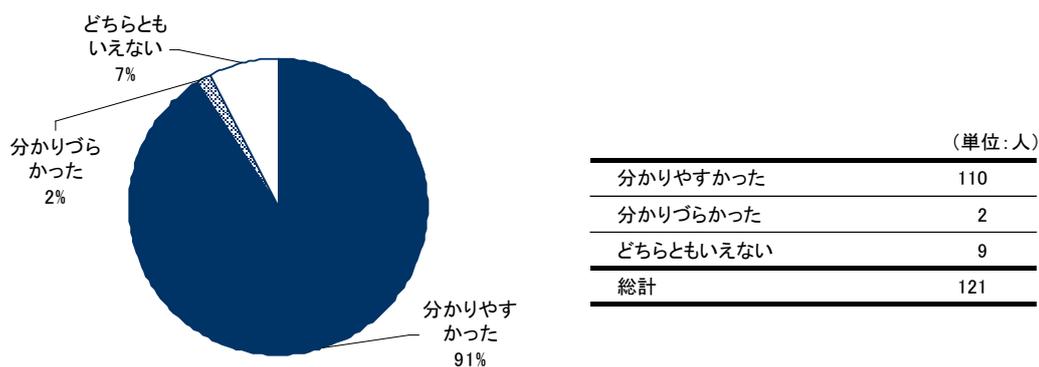


図 2.32 コーディネート推進コース：講義・討議 1 の講師のインストラクション

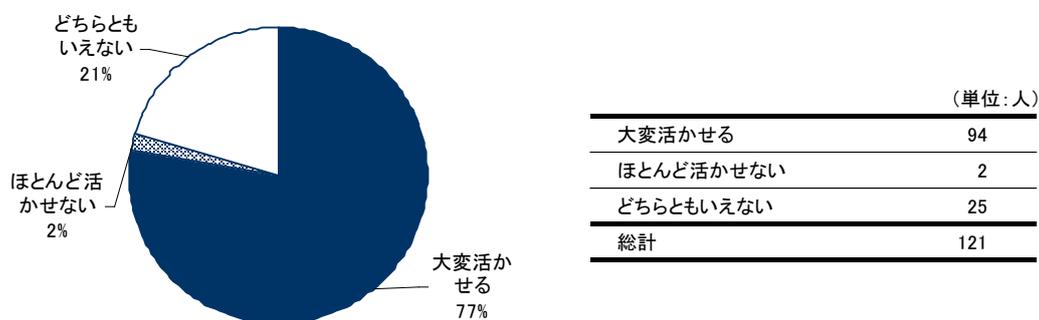


図 2.33 コーディネート推進コース：講義・討議 1 の今後の業務への活用

【講義・討議 2】

【プログラム】	現場からの提案で行われてきた農林水産関連研究の概観
【講師】	国立大学法人九州大学 名誉教授 齋藤 省吾 氏
【研修のポイント】	農林水産関連研究テーマの俯瞰と研究の重点化動向を知る

講義・討議 2 の研修のポイントについて、「理解できた」の回答が 89 名（全体の 75%）であり、おおむね受講者の理解は高く、「農林水産関連課題の内容傾向が整理されており、その傾向がつかめた」との意見が多かった（図 2.34 参照）。

講師のインストラクションについて、「分かりやすかった」の回答が 81 名（全体の 68%）であり、説明はおおむね分かりやすいものだったといえる（図 2.35 参照）。内容について、「もう少し深い解析結果が聞きたかった」、「独立行政法人科学技術振興機構（JST）の事業だけでなく、農林水産省の事業の事例の分析も知りたかった」との要望が多くあった。

今後の業務への活用について、「大変活かせる」の回答が 60 名（全体の 50%）、「どちらともいえない」の回答が 53 名（全体の 44%）であり、研修のポイントは多くの受講者が理解できているので、講義・討議 2 の内容の今後の業務への活用が期待される（図 2.36 参照）。

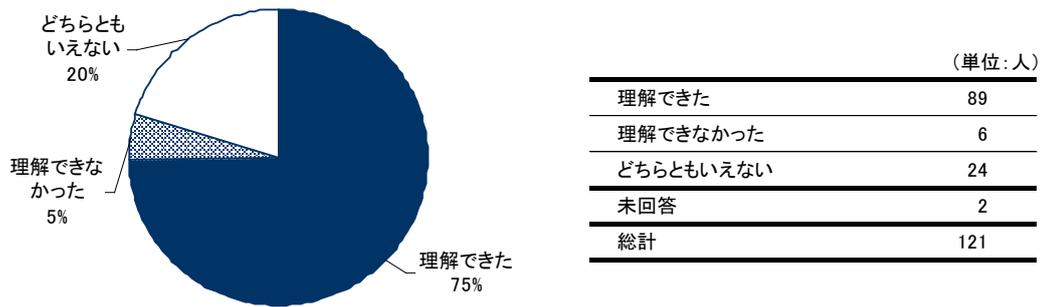


図 2.34 コーディネート推進コース：講義・討議2の研修のポイントの理解

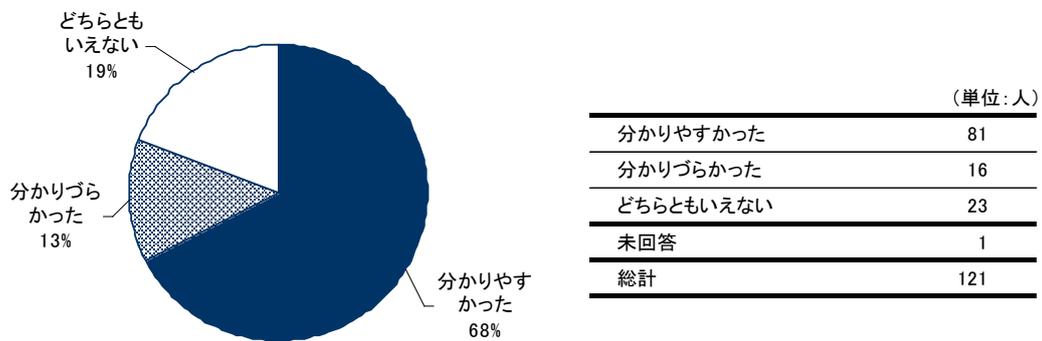


図 2.35 コーディネート推進コース：講義・討議2の講師のインストラクション

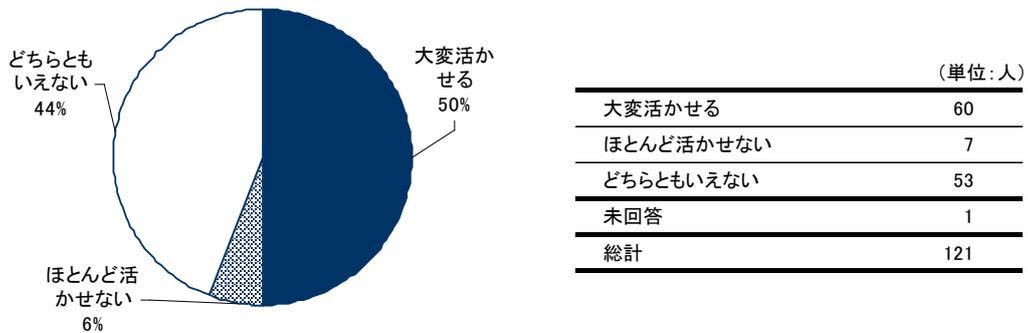


図 2.36 コーディネート推進コース：講義・討議2の今後の業務への活用

【講義・討議 3】

【プログラム】 研究ニーズの評価の視点：事例による課題設定の特徴付け

【講師】 国立大学法人九州大学 名誉教授 齋藤 省吾 氏

【研修のポイント】 研究ニーズの評価の視点を技術の選別法から学ぶ

講義・討議 3 の研修のポイントについて、「理解できた」の回答が 82 名（全体の 69%）であり、おおむね受講者の理解は高く、「客観的な評価手法の習得・強化ができた」との意見が多かった（図 2.37 参照）。

講師のインストラクションについて、「分かりやすかった」の回答が 75 名（全体の 63%）であり、説明はおおむね分かりやすいものだったといえる（図 2.38 参照）。内容について、「評価手法についてより具体的な事例を使って詳しく解説してほしい」との意見が産学連携業務の経験年数が少ない受講者を中心に多くあった。また、「農林水産分野の場合の活用法を説明してほしい」との意見が農林水産関連機関<sup>4</sup>所属の受講者から多くあった。

今後の業務への活用について、「大変活かせる」の回答が 68 名（全体の 58%）であり、受講者の講義・討議 3 の内容の今後の業務への活用が期待される（図 2.39 参照）。

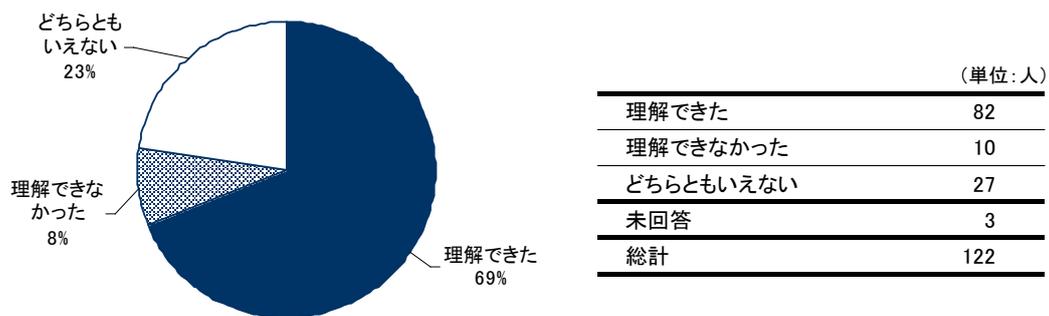


図 2.37 コーディネート推進コース：講義・討議 3 の研修のポイントの理解

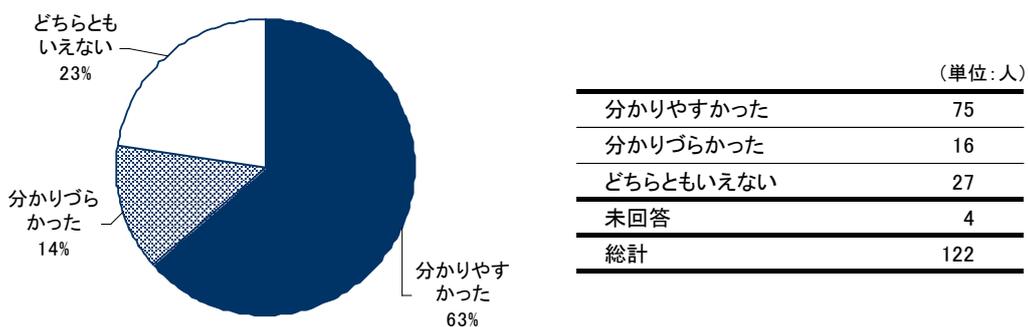


図 2.38 コーディネート推進コース：講義・討議 3 の講師のインストラクション

<sup>4</sup> 農林水産関連機関とは、ここでは、「公設試：農業系」、「公設試：林業系」、「公設試：水産業系」、「農水支援団体」、「普及指導センター」、「農業/林業/漁業組合」の総称をさす。

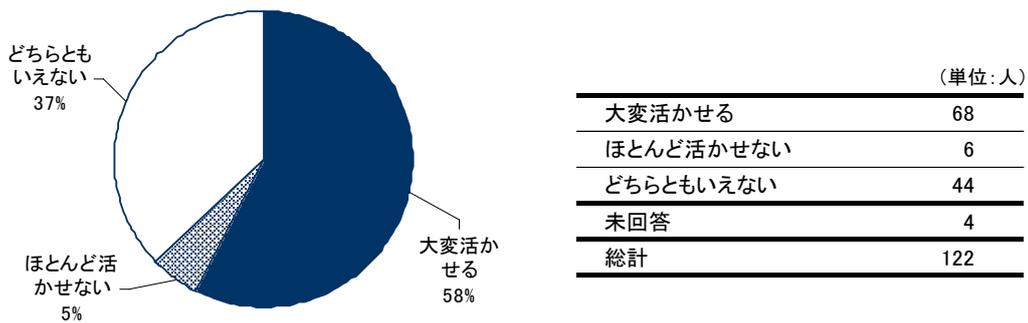


図 2.39 コーディネート推進コース：講義・討議3の今後の業務への活用

【講演2・講演3：グループ討議のためのケース事例紹介】

【プログラム】	グループ討議のためのケース事例紹介Ⅰ・Ⅱ
【事例と講師】	表2.2参照
【研修のポイント】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産学連携の実績事例や異分野連携の取り組み事例から課題解決推進に向けてポイントを探る</li> <li>・グループ討議でのケースメソッドの事例として視点を整理する</li> </ul>

表 2.2 講演2・講演3の事例と講師

開催地域	事例	講師
北海道	バイオプリザベーションの食品への利用(発酵による微生物制御)	愛知県産業技術研究所食品工業技術センター発酵技術室 主任研究員 山本 晃司 氏
	酪農・食品系排水の非生物(旋回噴流式オゾン酸化)処理システム	株式会社ヒューエンス 代表取締役 設楽 守良 氏
東北	光(色彩)選別機の開発と製品化における産学公連携による取り組み	株式会社サタケ 技術本部 選別・計測・計量グループグループ長 原 正純 氏
	和漢薬など天然資源に関する研究と実用化への展開	富山県薬事研究所 バイオテクノロジー・和漢薬研究課 主任研究員 小笠原 勝 氏
関東	耐熱性バイオマスプラスチックの製品開発	株式会社 平和化学工業所 常務取締役 畠山 治昌 氏
	水産物の安全・安心に向けたトレーサビリティの開発および推進への取り組みについて	公立はこだて未来大学システム情報科学部 教授 三上 貞芳 氏
東海	「土壌養分デジタルセンサーの技術開発と製品化」における産学官連携による取り組み	有限会社イグノス 代表取締役 大和田 功 氏
	果実非破壊ハイブリッド計測(糖度・熟度計)システムの原理・活用とその課題	名古屋大学大学院生命農学研究科 教授 土川 覚 氏
近畿	「植物ウイルス病ワクチンの開発と製品化」における産学公連携による取り組み	京都府農林水産技術センター 生物資源研究センター 所長 小坂 能尚 氏
	製糖排出物の技術統合型高次リサイクルシステム開発	株式会社熊谷組 プロジェクトエンジニアリング室環境グループ 副部長 内藤 敏 氏
中国四国	穀類外皮等の未利用資源の資源化開発	千葉大学大学院園芸学研究科 教授 江頭 祐嘉合 氏
	マハタの種苗生産技術の養殖業への展開	長崎県総合水産試験場 種苗量産技術開発センター魚類科 科長 宮木 廉夫 氏
九州	酪農・食品系排水の非生物(旋回噴流式オゾン酸化)処理システム	株式会社ヒューエンス 代表取締役 設楽 守良 氏
	水産物の安全・安心に向けたトレーサビリティの開発および推進への取り組みについて	公立はこだて未来大学システム情報科学部 教授 三上 貞芳 氏

講演2・講演3の研修のポイントについて、「理解できた」の回答が173名(全体の81%)であり、受講者の理解は高く、「明確で興味がある内容だった」、「業務に近い内容で参考になった」、「研究課題の設定方法や課題解決の過程が参考になった」との意見が多くあった(図2.40参照)。

講師のインストラクションについて、「分かりやすかった」の回答が182名(全体の86%)であり、説明は簡潔で分かりやすいものだったといえる(図2.41参照)。内容について、「実際に連携を進める上での問題点について聞いたかった」、「産学連携の推進のために具体的に何をしたかについての説明がほしかった」との要望が多くあった。

カリキュラムの時間について、「質疑の時間が短かった」との意見が多くあった。

今後の業務への活用について、「大変活かせる」の回答が121名(全体の58%)であり、研修のポイントは多くの受講者が理解できているので、講演2・講演3の内容の今後の業務への活用が期待される(図2.42参照)。

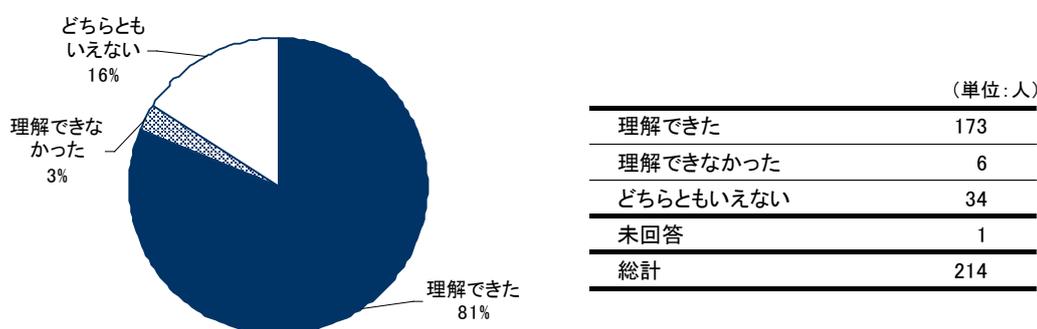


図 2.40 コーディネート推進コース：講演2・講演3の研修のポイントの理解

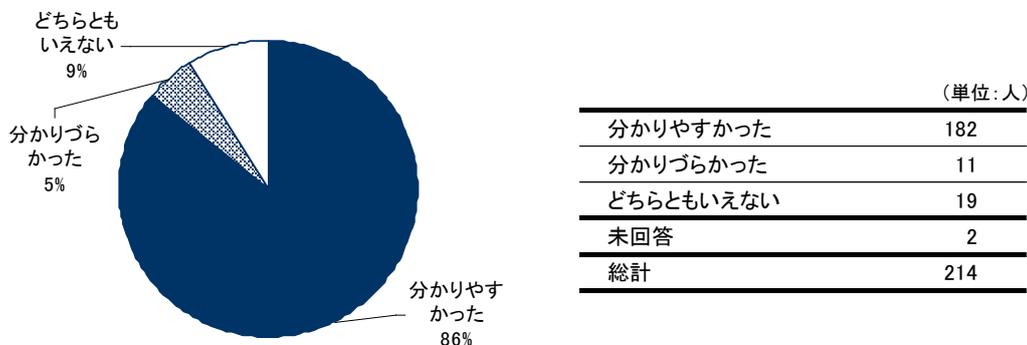


図 2.41 コーディネート推進コース：講演2・講演3の講師のインストラクション

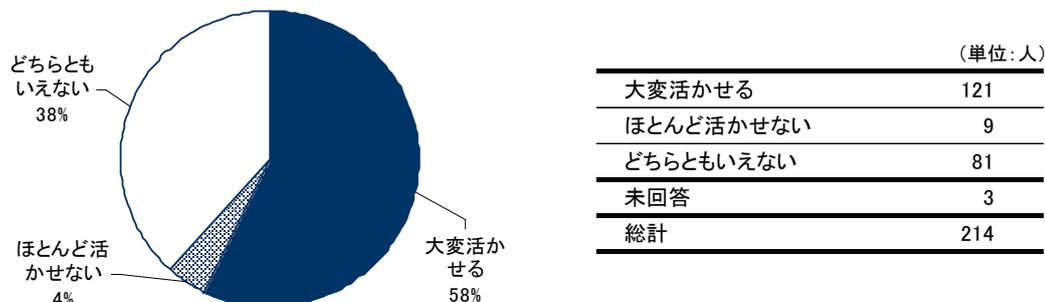


図 2.42 コーディネート推進コース：講演2・講演3の今後の業務への活用

## 【ケースメソッド】

【プログラム】 現場ニーズに即した研究計画をつくるには？ー計画形成のポイント：事例による課題設定手法の解説

【講師】 国立大学法人九州大学 名誉教授 齋藤 省吾 氏  
全日本地域研究交流協会 中崎 正好 氏

【研修のポイント】 グループ討議のアプローチについてケース事例をもとに検討方法を知る

ケースメソッドの研修のポイントについて、「理解できた」の回答が71名（全体の68%）であり、おむね受講者の理解は高く、「定量的な分析手法を知ることができた」、「シーズ・ニーズの具体的なとらえ方と研究計画立案方法は参考になった」との意見が多くあった（図2.43 参照）。

講師のインストラクションについて、「分かりやすかった」の回答が57名（全体の55%）であり、説明は分かりやすいものだったとはいえない（図2.44 参照）。この理由として「内容が抽象的で分かりづらい」、「詳細に説明してほしい」との意見が多くあった。

「現場ニーズからの課題設定に向けた俯瞰分析シート（以下、「分析シート」という）」の活用法について、「理解できた」の回答が45名（全体の64%）であり、「分析シートは、今後の業務に活かせる」との意見があるいっぽうで、「もう少し詳しく説明してほしい」との意見があった（図2.45 参照）。

今後の業務への活用について、「大変活かせる」の回答が55名（全体の52%）であり、受講者のケースメソッドの内容の今後の業務への活用が期待される（図2.46 参照）。

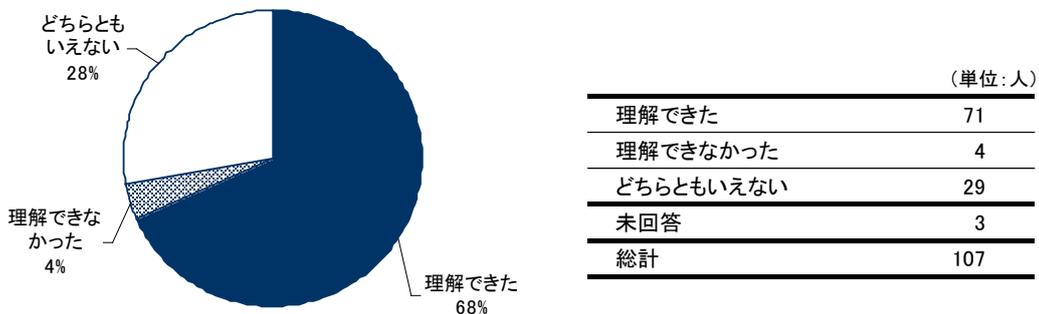


図 2.43 コーディネート推進コース：ケースメソッドの研修のポイントの理解

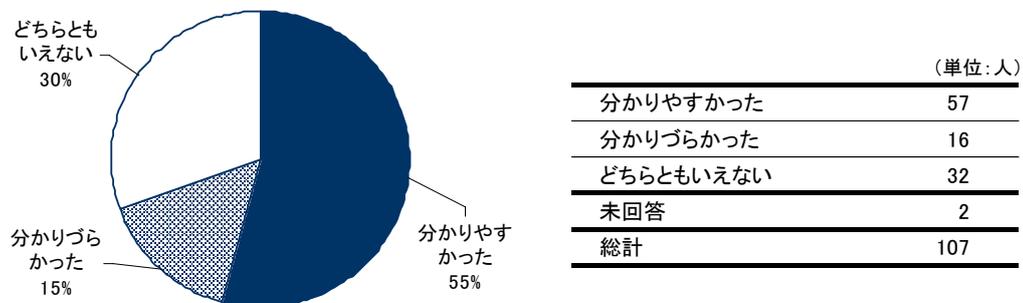


図 2.44 コーディネート推進コース：ケースメソッドの講師のインストラクション

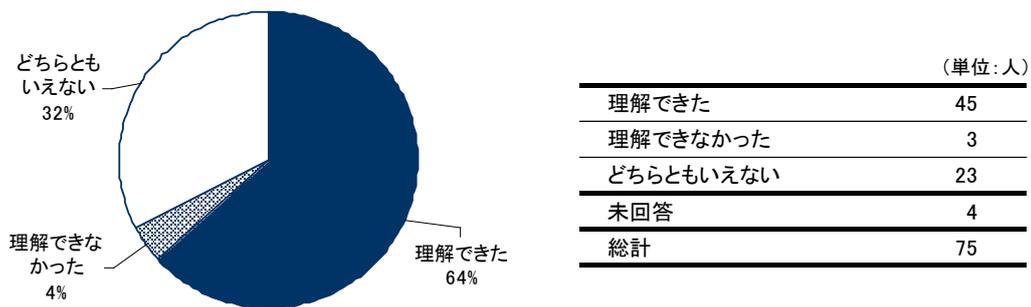


図 2.45 コーディネート推進コース：分析シートの活用法についての説明

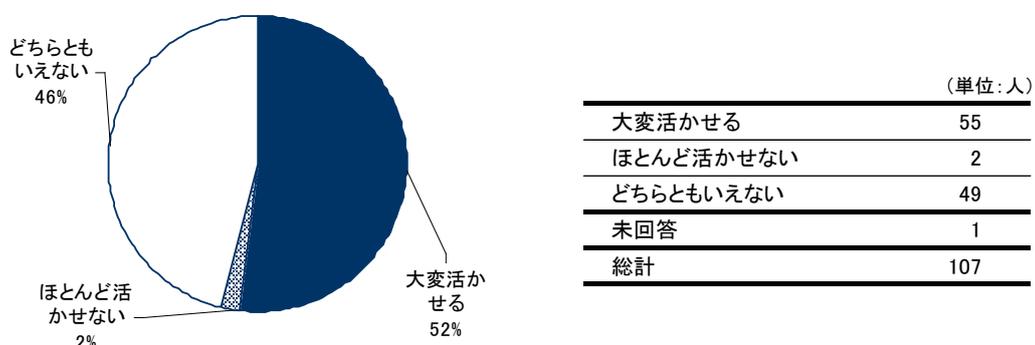


図 2.46 コーディネート推進コース：ケースメソッドの今後の業務への活用

【グループ討議】

【プログラム】	グループ討議：ケースメソッド
【研修のポイント】	・事例での研究ニーズの洗い出しと研究課題の設定・課題解決までのポイントを整理する。 ・新たな視点での課題解決の方策を検討する

「グループ討議」では、講演 2・講演 3 の事例の事例について、分析シートを活用しながら討議を進めた。

グループ討議の評価について、受講者全体で見ると、「十分に参画ができ満足」が 40 名（全体の 39%）、「参画機会が少なかったが満足」が 36 名（全体の 35%）であり、多くの受講者が「満足」と高く評価しており、「活発なグループ討議であった」、「いろいろな立場の意見を聞くことができ参考になった」、「異分野の方々との議論を進めることの難しさが分かった」との意見が多くあった（図 2.47 参照）。いっぽう「不満」と回答した受講者からは「討議内容が明確でなかった」との意見が多くあった。そのほか、「討議時間が足りなかった」、「人数が多かった」、「モデレーターの工夫が必要」、「講師がグループ討議に参加すべき」との意見もあった。

分析シートについて、「理解できた」の回答が 54 名（全体の 53%）であった（図 2.48 参照）。「分析シートを活用で課題設定に必要な項目と全体が俯瞰できた」との意見が多数あったが、そのいっぽうで「討議と分析シートの構成の関係が理解できなかった」との意見も多数あった。

今後の業務への活用について、「大変活かせる」の回答が 59 名（全体の 58%）であり、受講者の今後の産学連携プロジェクトの形成・推進における活用が期待される（図 2.49 参照）。

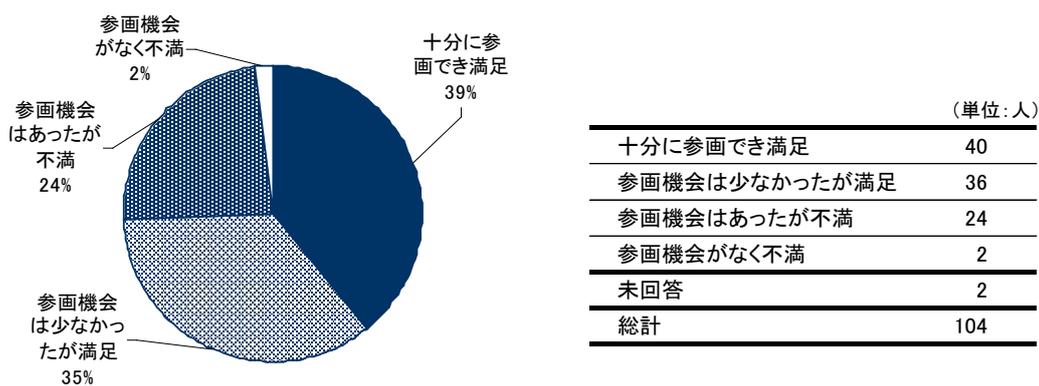


図 2.47 コーディネート推進コース：グループ討議の評価

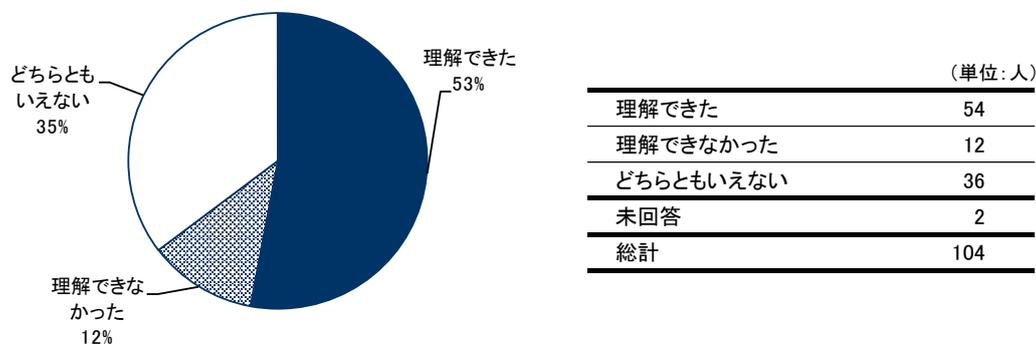


図 2.48 コーディネート推進コース：分析シートの理解

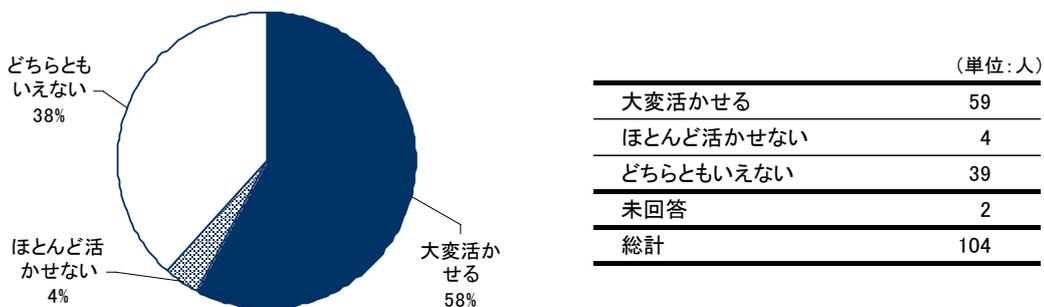


図 2.49 コーディネート推進コース：グループ討議の今後の業務への活用

## 2.2. コーディネート推進強化コースの評価

ここでは、コーディネーター人材育成研修計画「コーディネート推進強化コース」の評価について、受講者の参加申込書と研修終了後のアンケートから考察する。受講者の参加申込書および研修終了後のアンケートの回収状況については表 2.3 のとおりである。

表 2.3 コーディネート推進強化コースの参加申込書および事後アンケートの回収状況

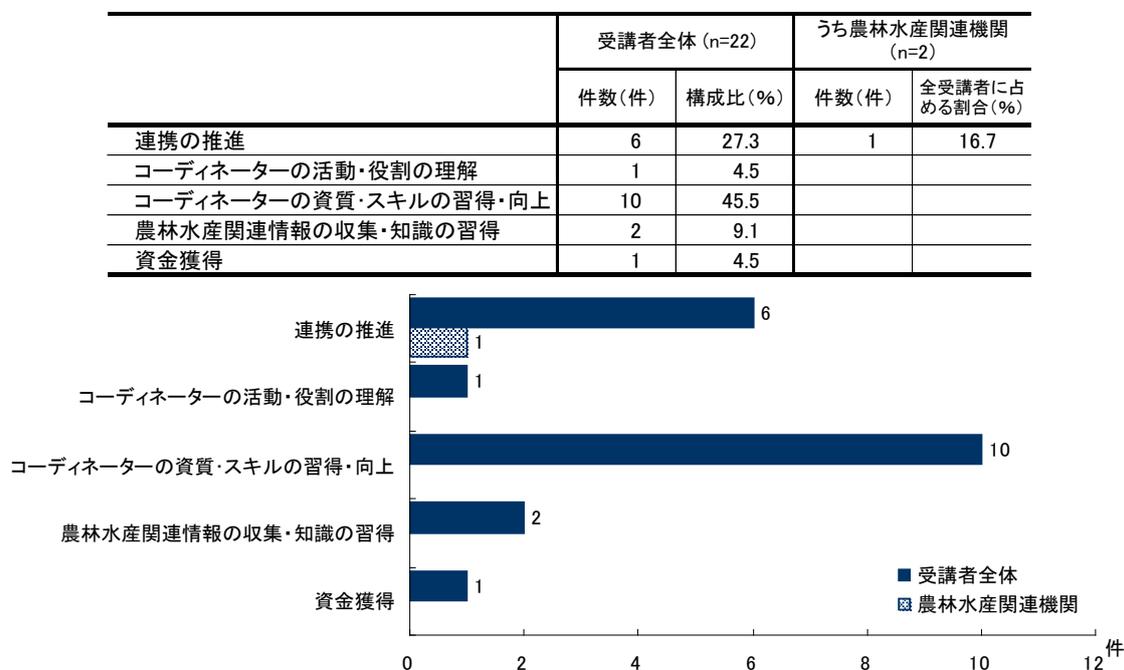
参加申込書(件)	22
事後アンケート回答数(件)	19
回答率(%)	86.4

注) 参加申込書の件数は、受講者数と同値である。

### 2.2.1. コーディネート推進強化コースの受講者の事前意識

参加申込書に記入された「業務において抱えている課題」、「業務を行うにあたり不足しているスキル」、「研修に対する要望」から、コーディネート推進強化コースの受講者の事前意識、状況を整理する。

「業務において抱えている課題」におけるコーディネーター業務に関する事項を整理すると(図 2.50 参照)、「コーディネーターの資質・スキルの習得・向上」が最も多く 10 件(全体の 45.5%)であり、その理由として「ニーズの把握の難しさ」、「シーズとニーズのマッチングの難しさ」があげられている。次いで「連携の推進」が 6 件(全体の 27.3%)であり、「連携体制の構築」や「農商工連携の促進」などの「異分野連携の推進」に関する課題があげられている。



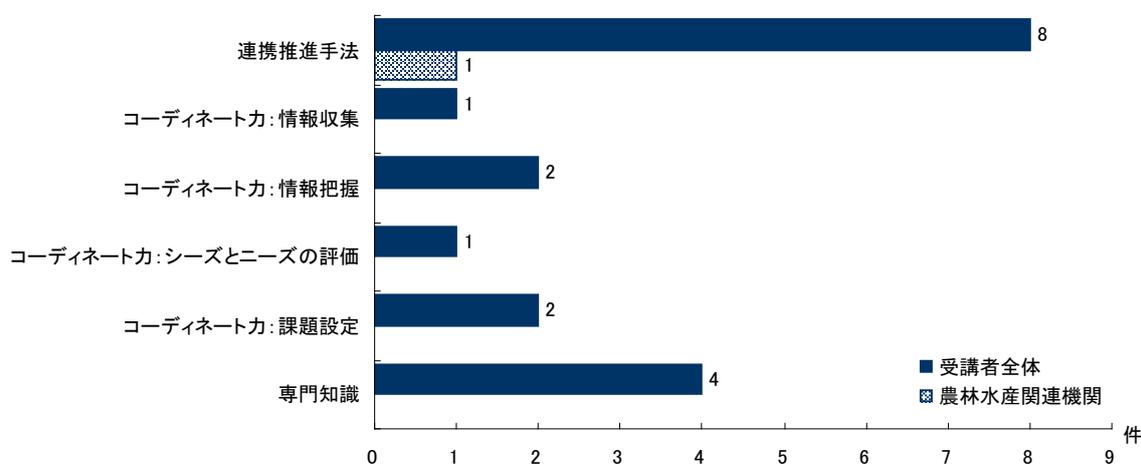
注) 農林水産関連機関とは、ここでは、「公設試：農業系」、「公設試：林業系」、「公設試：水産業系」、「農水支援団体」、「普及指導センター」、「農業/林業/漁業組合」のことをさす。  
・複数回答であり、上位5項目をあげている。

図 2.50 コーディネート推進強化コースの受講者の業務課題

「業務を行うにあたり不足しているスキル」については、先の業務課題の解決のために必要となるスキルがあげられていると考える。「業務を行うにあたり不足しているスキル」におけるコーディネーター業務に関する事項を整理すると（図 2.51 参照）、「連携推進手法」が最も多く 8 件（全体の 36.4%）であり、先の業務課題の解決のために「産連携をするにあたっての全般的なコーディネート能力」が必要であると考えられる受講者が多い。次いで「専門知識」が 6 件（全体の 18.2%）であり、このうち「農林水産・食品分野に関する知識」を必要としている受講者が多い。

「研修に対する要望」におけるコーディネーター業務に関する事項について、「研修に対する要望」については、先の業務課題の解決やそのために必要となるスキルを習得できるカリキュラムの内容があげられていると考える。「研修に対する要望」におけるコーディネーター業務に関する事項を整理すると（図 2.52 参照）、「農林水産関連の情報・知識」が最も多く 6 件（全体の 27.3%）、次いで「事例研究」が 5 件（全体の 22.7%）、「連携推進手法」が 4 件（全体の 18.2%）である。「具体的なコーディネーターの取組事例に基づいた連携の推進を数多く知りたい」との意見が多い。

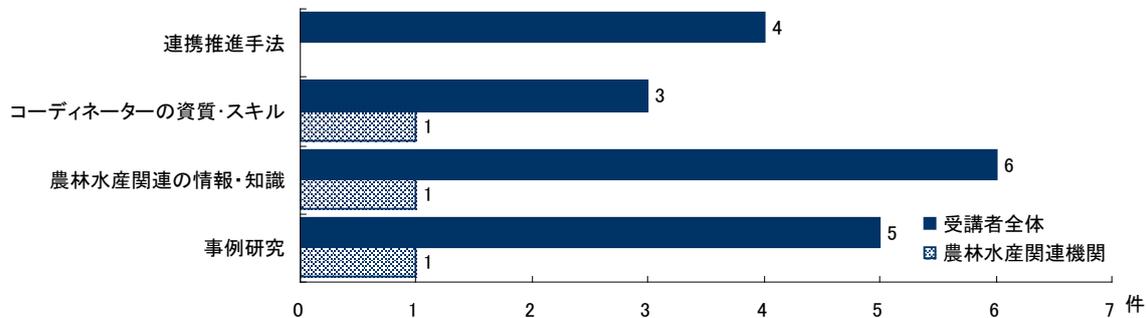
	受講者全体 (n=22)		うち農林水産関連機関 (n=2)	
	件数(件)	構成比(%)	件数(件)	全受講者に占める割合(%)
連携推進手法	8	36.4	1	12.5
コーディネート力:情報収集	1	4.5		
コーディネート力:情報把握	2	9.1		
コーディネート力:シーズとニーズの評価	1	4.5		
コーディネート力:課題設定	2	9.1		
専門知識	4	18.2		



注)・農林水産関連機関とは、ここでは、「公設試：農業系」、「公設試：林業系」、「公設試：水産業系」、「農水支援団体」、「普及指導センター」、「農業/林業/漁業組合」のことをさす。  
・複数回答であり、上位 6 項目をあげている。

図 2.51 コーディネート推進強化コースの受講者が認識する不足するスキル

	受講者全体 (n=22)		うち農林水産関連機関 (n=2)	
	件数(件)	構成比(%)	件数(件)	全受講者に占める割合(%)
連携推進手法	4	18.2		
コーディネーターの資質・スキル	3	13.6	1	33.3
農林水産関連の情報・知識	6	27.3	1	16.7
事例研究	5	22.7	1	20.0



注)・農林水産関連機関とは、ここでは、「公設試：農業系」、「公設試：林業系」、「公設試：水産業系」、「農水支援団体」、「普及指導センター」、「農業/林業/漁業組合」のことをさす。  
 ・複数回答であり、上位4項目をあげている。

図 2.52 コーディネート推進強化コースの受講者の研修に対する要望

## 2.2.2. コーディネート推進強化コースのプログラム全体の評価

次に、コーディネート推進強化コースのプログラム全体の評価について、研修終了後のアンケートをもとに考察する

### 【プログラムの全体の印象】

プログラムの全体の評価について、受講者全体でみると、「大変役立った」が7名（全体の37%）、「おおむね役立った」が9名（全体の47%）であり、多くの受講者が「役立った」と評価している（図 2.53 参照）。また、良かった点について、コーディネーター業務に関しては「産学連携プロジェクトの形成・推進に役立つ」、「コーディネーターに求められる視点が理解できた」との意見が、カリキュラムの内容に関しては「事例が興味深かった」、「様々な事例が参考になった」との意見がある。そのいっぽうで、工夫が必要と思われる点について、カリキュラムの内容に関して「特殊な事例のように感じた」、「研修の位置づけが理解できなかった」など事例の選定を問題とする意見もあった。

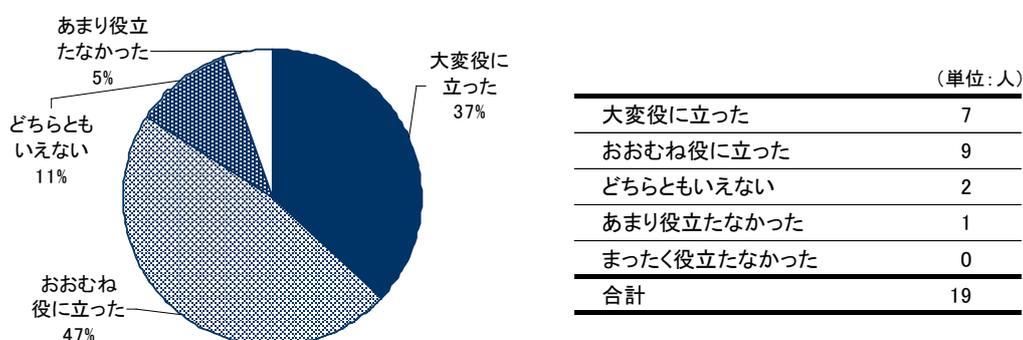


図 2.53 コーディネート推進強化コースの研修プログラム全体の評価

### 【今後の業務への活用】

コーディネート推進強化コースの今後の業務への活用について、「どちらともいえない」が最も多く11名（全体の58%）であり、「具体的な事例紹介であり分かりやすかった」との意見が多いいっぽうで、「事例報告が中心で参考にはあまりならなかった」との意見もあった（図 2.54 参照）。

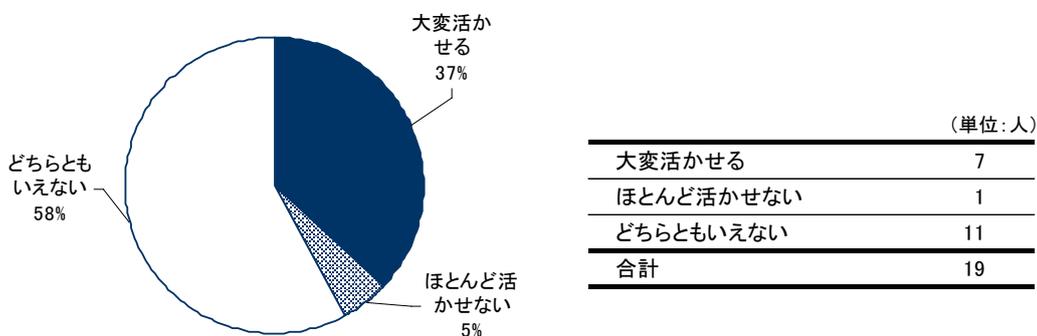


図 2.54 コーディネート推進強化コースの業務への活用

### 2.2.3. コーディネート推進強化コースのカリキュラムの内容の評価

コーディネート推進強化コースのカリキュラムの内容について、研修後のアンケートから、プログラム順に個別に評価をみる。

#### 【講義・討議 1】

【プログラム】	放射線技術を利用したウリミバエなど害虫の不妊虫放飼法の事業化
【講師】	沖縄県病害虫防除技術センター 特殊害虫班 班長 久場 洋之 氏
【研修のポイント】	技術を実用化するにあたっての障害を見抜く視点を学ぶ

講義・討議 1 の研修のポイントについて、「捉えられた」の回答が 12 名（全体の 66%）であり、おおむね受講者の理解は高く、「明確で興味がある内容」、「問題解決を試みられた研究過程や事業化までの流れが参考になった」との意見があった（図 2.55 参照）。

講師のインストラクションについて、「分かりやすかった」の回答が 18 名（全体の 100%）であり、説明は簡潔で大変分かりやすいものだったといえる（図 2.56 参照）。

今後の業務への活用について、「どちらともいえない」の回答が 10 名（全体の 55%）、「大変活かせる」が 5 名（全体の 28%）であり、研修のポイントはおおむね捉えられているので、講義・討議 1 の内容は実際に業務を行う際に活用されることが期待される（図 2.57 参照）。

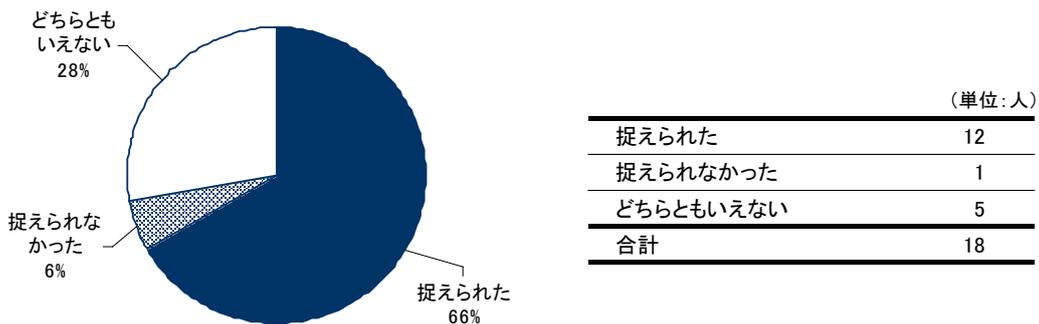


図 2.55 コーディネート推進強化コース：講義・討議 1 の研修のポイントの捕捉

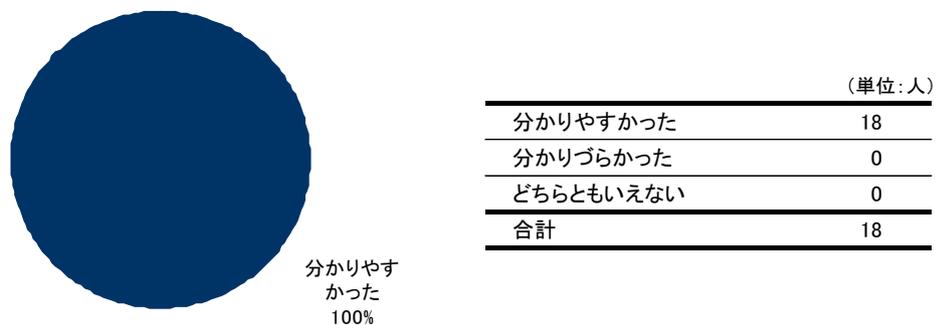


図 2.56 コーディネート推進強化コース：講義・討議 1 の講師のインストラクション

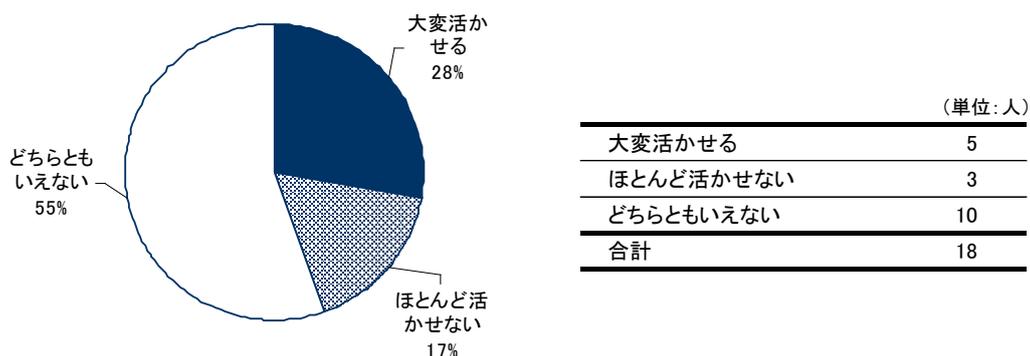


図 2.57 コーディネート推進強化コース：講義・討議1の今後の業務への活用

【講義・討議2】

【プログラム】 オニヒトデを中心とする愛媛県南予のイノベーション：農林水産の事業化と知財  
 【講師】 アイ・ドゥ国際特許事務所 代表・弁理士 井戸 篤史 氏  
 【研修のポイント】 農林水産分野における知財戦略を模索する

講義・討議2の研修のポイントについて、「捉えられた」の回答が12名（全体の67%）であり、おおむね受講者の理解は高く、「愛媛大学と地域との連携がよく分かった」、「積極的な知財の取得、権利化が重要なことが理解できた」との意見があった（図2.58参照）。

講師のインストラクションについて、「分かりやすかった」の回答が16名（全体の88%）であり、説明は簡潔で分かりやすいものだったといえる（図2.59参照）。内容について、「知財戦略についてもう少し詳細な説明が聞きたかった」との意見が多くあった。

今後の業務への活用について、「どちらともいえない」の回答が10名（全体の56%）、「大変活かせる」が6名（全体の33%）であり、研修のポイントはおおむね捉えられているので、講義・討議2の内容は実際に業務を行う際に活用されることが期待される（図2.60参照）。

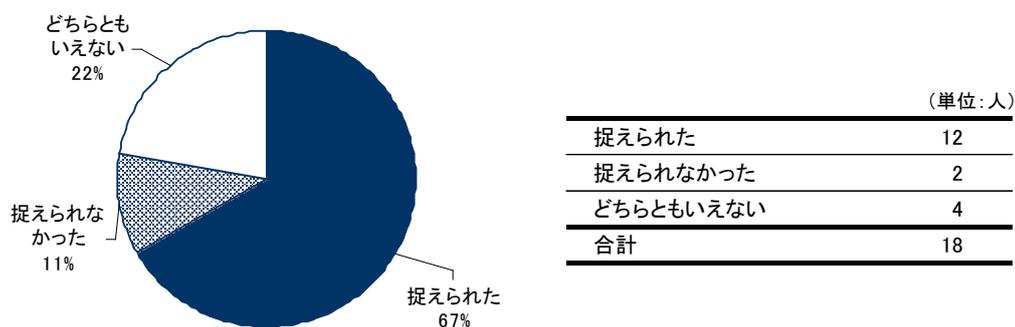


図 2.58 コーディネート推進強化コース：講義・討議2の研修のポイントの捕捉

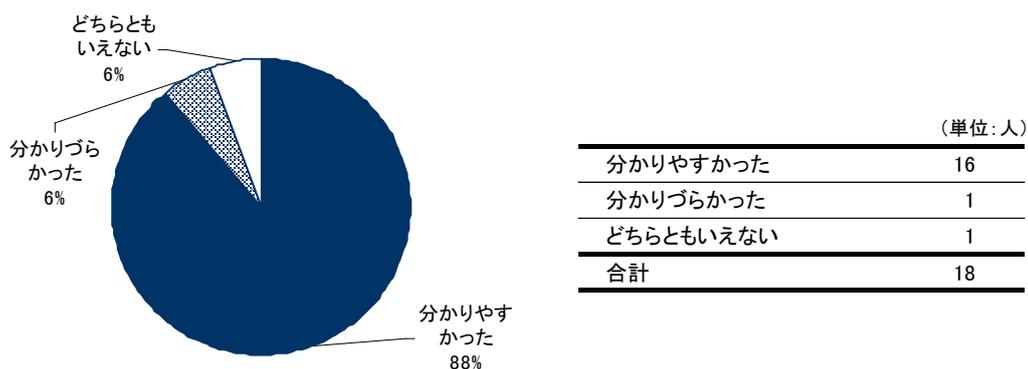


図 2.59 コーディネート推進強化コース：講義・討議2の講師のインストラクション

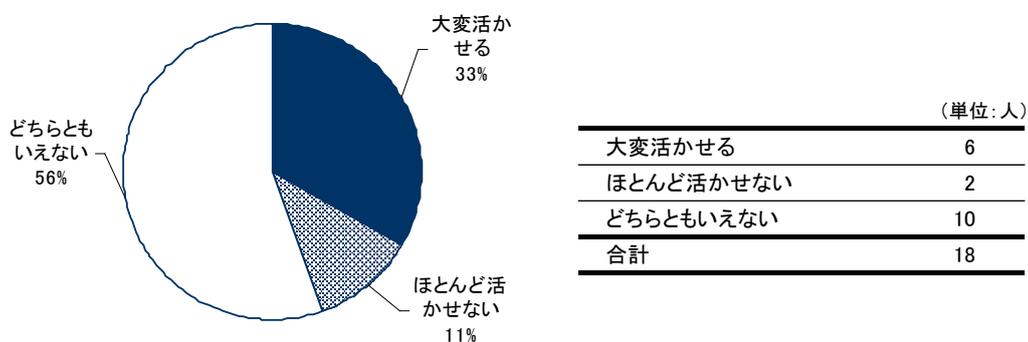


図 2.60 コーディネート推進強化コース：講義・討議2の今後の業務への活用

【講義・討議3】

【プログラム】	金融機関から見た農林水産分野の技術開発への投資と融資
【講師】	株式会社北海道銀行 法人営業部 参与 西山 泰正 氏
【研修のポイント】	投融資の視点から効率・効果的なプロジェクト評価の視点を探る

講義・討議3の研修のポイントについて、「捉えられた」の回答が12名（全体の67%）であり、おおむね受講者の理解は高く、「金融機関が投融資している事例を聞くことができ、投融資の視点が理解できた」との意見が多くあった（図2.61参照）。

講師のインストラクションについて、「分かりやすかった」の回答が14名（全体の78%）であり、説明は分かりやすいものだったといえる（図2.62参照）。

今後の業務への活用について、「どちらともいえない」の回答が9名（全体の50%）、「大変活かせる」が8名（全体の44%）であり、研修のポイントはおおむね捉えられているので、講義・討議3の内容は実際に業務を行う際に活用されることが期待される（図2.63参照）。

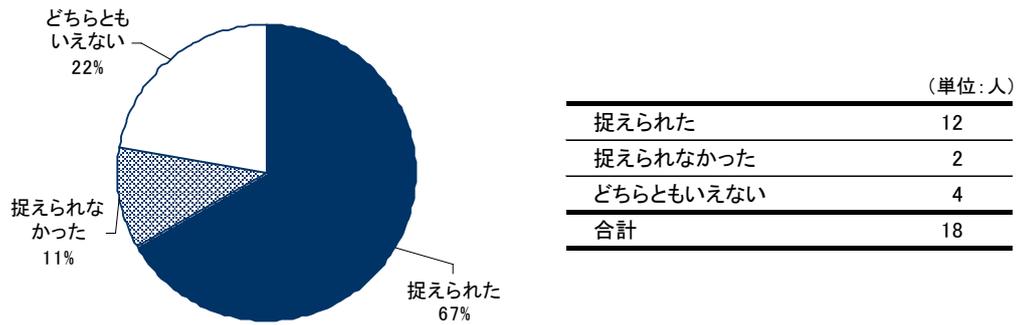


図 2.61 コーディネート推進強化コース：講義・討議3の研修のポイントの捕捉

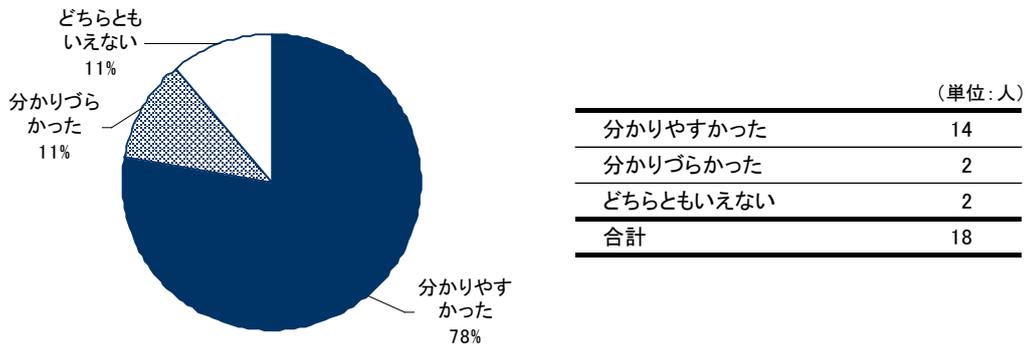


図 2.62 コーディネート推進強化コース：講義・討議3の講師のインストラクション

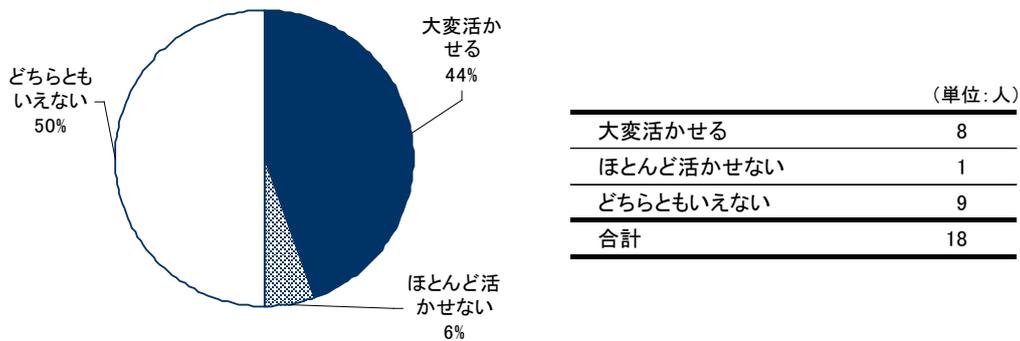


図 2.63 コーディネート推進強化コース：講義・討議3の今後の業務への活用

【講義・討議4】

[プログラム]	高知の農山漁村を元気にする産学官民連携
[講師]	国立大学法人高知大学 国際・地域連携センター 准教授 石塚 悟史 氏
[研修のポイント]	地域ニーズを活かしたビジネスモデル・アライアンス体制構築の方途の視点を学ぶ

講義・討議4の研修のポイントについて、「捉えられた」の回答が14名（全体の82%）であり、受講者の理解は高く、「高知大学と地域自治体との協働した取り組みが参考になった」との意見が多くあった（図2.64参照）。

講師のインストラクションについて、「分かりやすかった」の回答が17名（全体の100%）であり、説明は簡潔で分かりやすいものだったといえる（図2.65参照）。内容について、「自治体との連

携のあり方や工夫された点についても聞きたかった」との意見が多くあった。

今後の業務への活用について、「大変活かせる」が12名（全体の67%）、「どちらともいえない」の回答が6名（全体の33%）であり、研修のポイントは捉えられているので、講義・討議4の内容は実際に業務を行う際に活用されることが期待される（図2.66参照）。

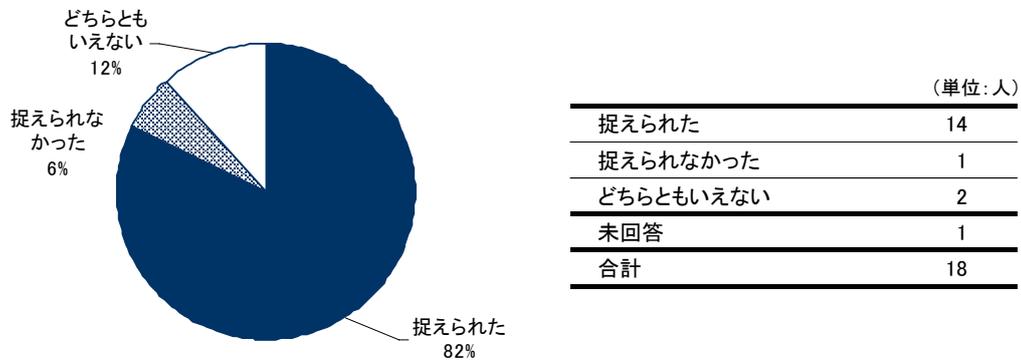


図 2.64 コーディネート推進強化コース：講義・討議4の研修のポイントの捕捉

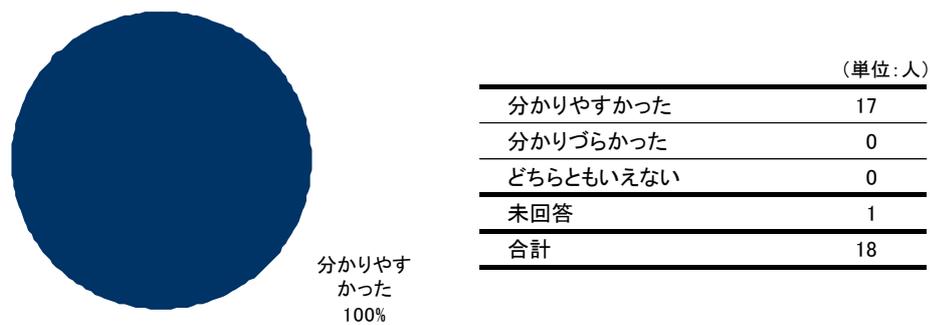


図 2.65 コーディネート推進強化コース：講義・討議4の講師のインストラクション

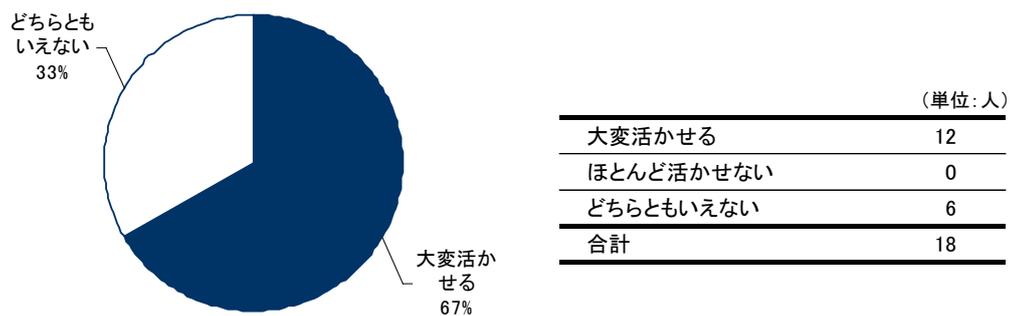


図 2.66 コーディネート推進強化コース：講義・討議4の今後の業務への活用

### 3. 人材育成研修プログラムのカリキュラム以外の評価

ここでは、ここでは、コーディネーター人材育成研修計画のカリキュラム以外の研修外部の評価について、研修終了後のアンケートをもとに考察する。

#### 3.1. 研修形式とカリキュラムの時間割・日程

本研修では「講演」だけでなく、「講義・討議」や「グループ討議」を設け、受講者の主体的な参画を得て展開した。

「コーディネート推進コース」における研修形式について、受講者全体でみると、「十分に参画ができ満足」が39名（全体の31%）、「参画機会が少なかったが満足」が56名（全体の45%）であり、多くの受講者が「満足」と高い評価であり、「いろいろな立場の意見を聞くことができた」、「事例発表会に終始しなかった点は良かった」との意見が多くあった（図3.1参照）。地域別にみると、どの地域も「満足」と評価が高く、「十分に参画ができ満足」が比較的高いのが「中国四国」、「東北」、「九州」である。

いっぽう「不満」と回答した受講者からは「討議の時間で講師・参加者との間で討議すべき」、「グループ討議の時間をより多くとってほしい」がそれぞれ14件、「講演に対して質疑応答の時間がほしい」、「個別の課題について講師に相談する時間がほしい」がそれぞれ14件であり、「もっと討議の時間がほしい」という意見が多い。そのほか、工夫が必要な点として、「モデレーターの工夫が必要」が5件、「活動状況によるグループ分けが必要」が3件あった（図3.2参照）。

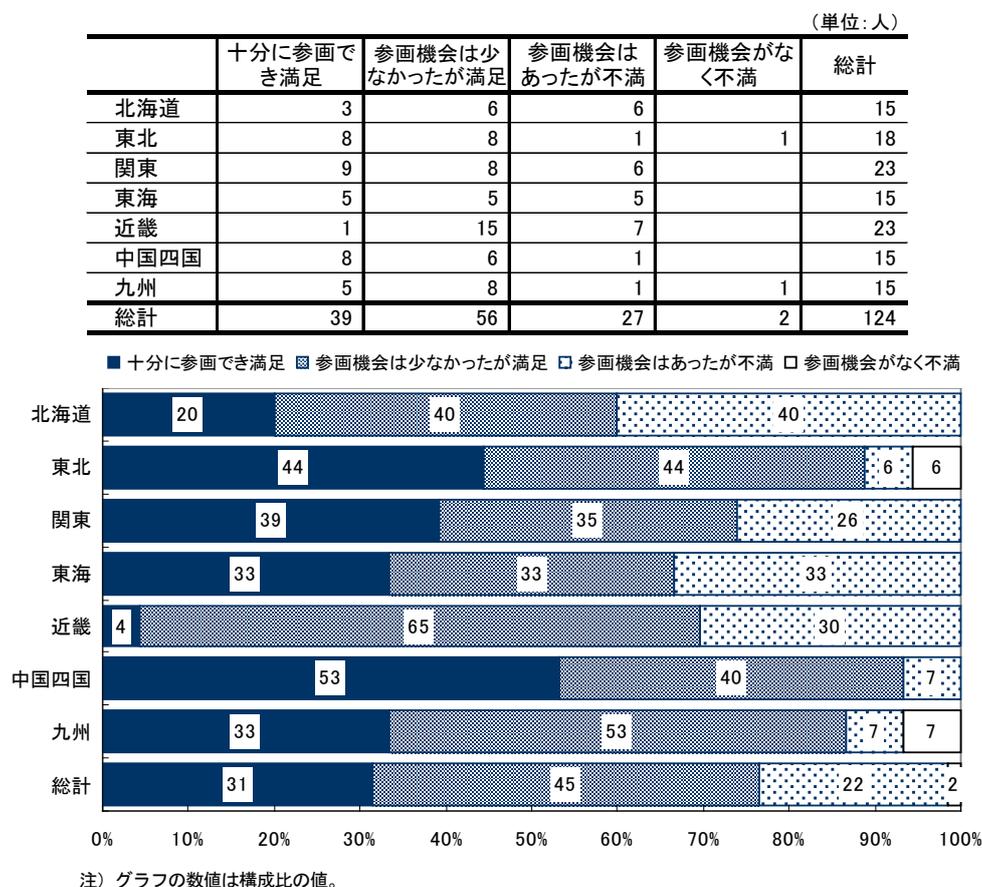


図 3.1 コーディネート推進コースの研修形式の評価

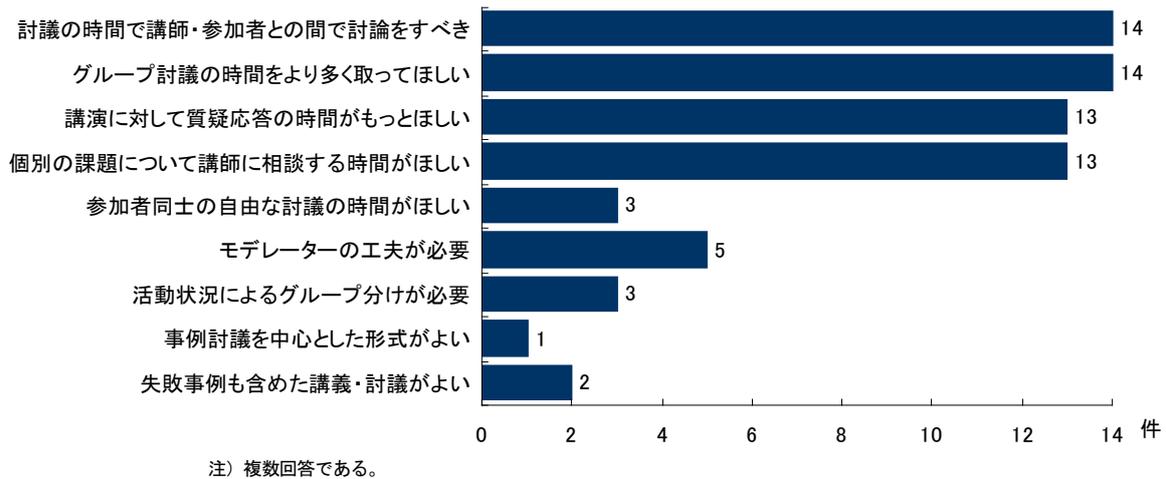


図 3.2 コーディネート推進コースの研修形式への要望

「コーディネート推進強化コース」における研修形式について、受講者全体でみると、「十分に参画ができ満足」が4名（全体の21%）、「参画機会が少なかったが満足」が8名（全体の42%）であり、多くの受講者が「満足」と評価が高い（図 3.3 参照）。

いっぽう「不満」と回答した受講者からは「講演に対して質疑応答の時間がほしい」が6件、「討議の時間で講師・参加者との間で討論すべき」が5件、「個別の課題について講師に相談する時間がほしい」が1件あった（図 3.4 参照）。

また、どのカリキュラムについても、「十分に討議できる時間が少ない」、「時間が短く内容が理解できない」、「スキルの習得に関して時間が短い」との意見が多くあった。

研修の形式について、最も多くの要望があったのは「参加者の交流会」で67件、次いで「参加者の事例を題材とした研修」が64件、「現場視察」が51件であった（図 3.5 参照）。

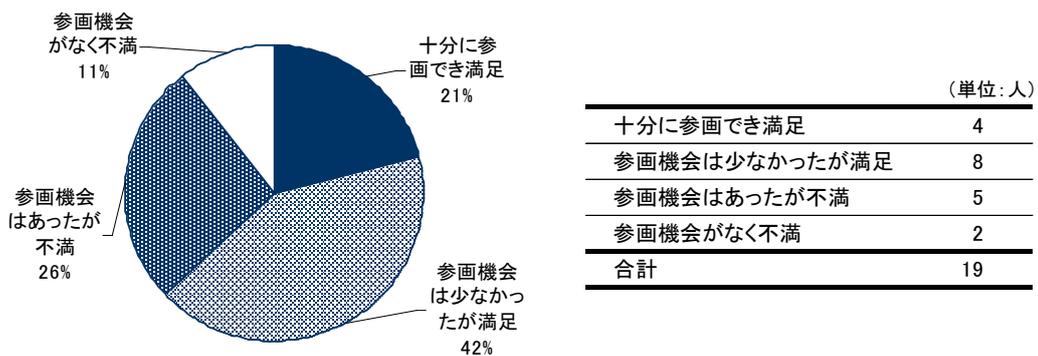


図 3.3 コーディネート推進強化コースの研修形式の評価

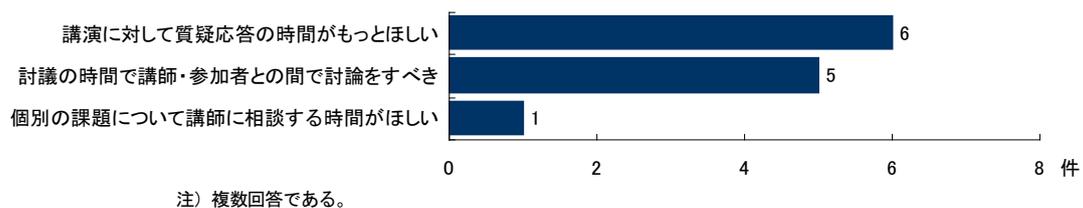


図 3.4 コーディネート推進強化コースの研修形式への要望

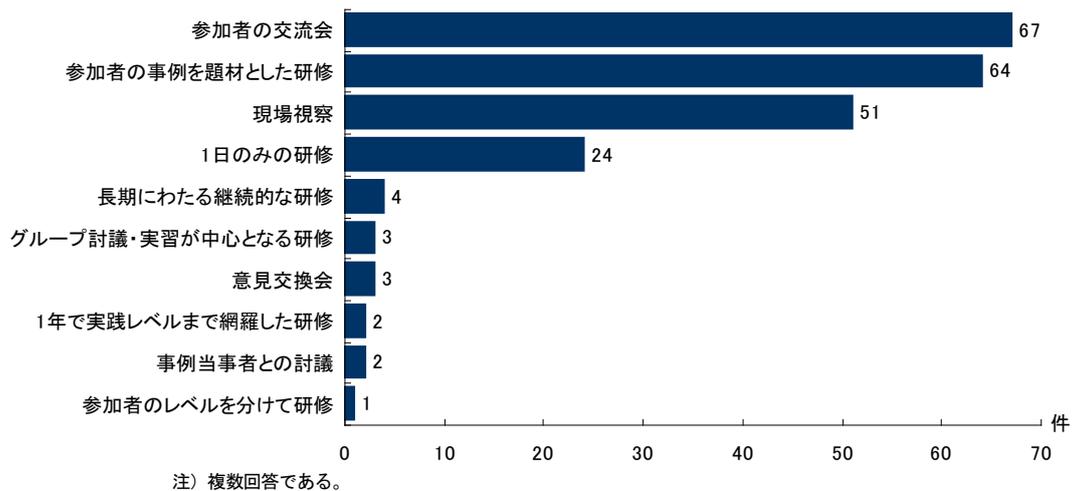


図 3.5 研修形式への要望

### 3.2. テーマの設定

研修のテーマの設定について、本研修では「様々な事例が参考になった」、「ケース事例分析が参考になった」との高く評価されているが、そのいっぽうで、「具体的な事例を多く紹介してほしい」、「コーディネーターの活動事例を紹介してほしい」との要望も多かった。今後の研修で取り上げてほしいテーマで最も多いのが「事例研究」で16件、ついで「コーディネーターのスキル」が6件、「連携推進手法」が5件であった（図3.6参照）。特に、農林水産省のプロジェクトの事例を多く取り上げる研修への参加希望について、「参加したい」が88名（全体の91%）であり、ほとんどの受講者が希望している（図3.7参照）。

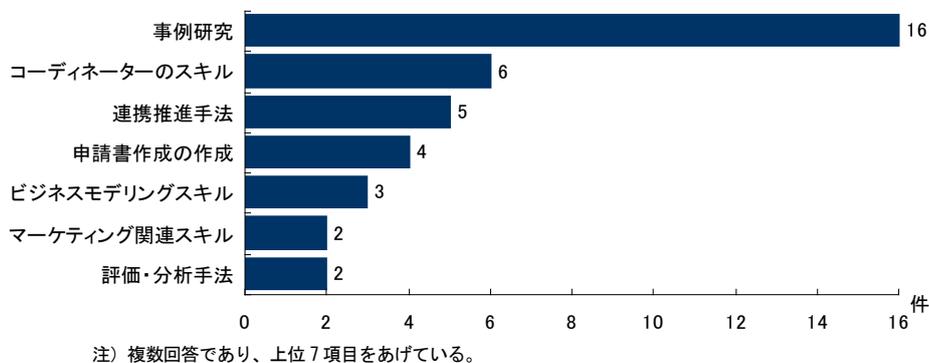


図 3.6 カリキュラムのテーマの要望

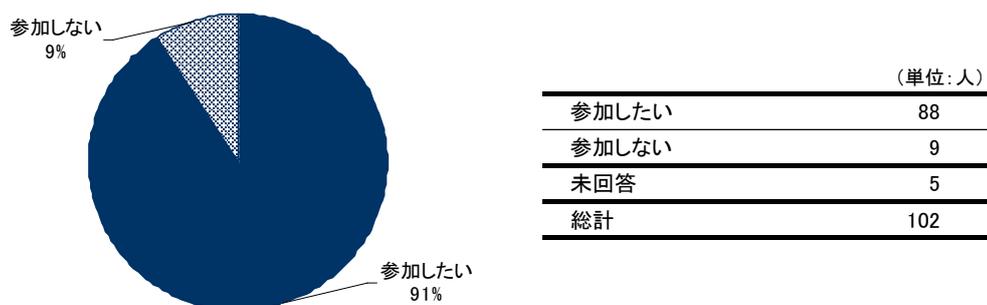


図 3.7 農林水産省のプロジェクトの事例を多く取り上げる研修への参加希望

研修の題材に対する要望について、件数は多くないが、食品加工分野など農林水産分野と他分野の連携について関心がある（表 3.1 参照）。

表 3.1 研修の題材への要望

(単位:件)	
食品加工関係の研究テーマ	2
6次産業化	2
機能性食品	1
農業分野で抱える技術的な問題	1
TPPに対する日本農林水産分野の取るべき対応	1

### 3.3. 人的ネットワークの形成

研修の場はネットワークの形成に重要な役割を果たす。受講者間の交流をはかるため、「コーディネート推進コース」において、「北海道」、「東北」、「関東」、「東海」、「近畿」の開催では「自己紹介」の時間を設けた。また、「自己紹介」の時間を設けられなかった「中国四国」、「九州」の開催では、受講者の「所属機関」、「業務内容」、「業務課題」、「業務に必要な情報」、「研修に対する要望」の一覧を作成して配布した。

「コーディネート推進コース」における人的ネットワークの形成について、「今後繋がりたい方が見つかった」の回答が106名（全体の89%）であり、本研修が人的ネットワーク形成に大変寄与していることが分かる（図 3.8 参照）。また、今後の人的ネットワークの活用について、最も多いのが「必要に応じた情報交換」で81件、次いで「農林水産・食品分野、農山漁村に関する専門的なアドバイスを期待」が46件、「具体的なプロジェクトまたは新たなプロジェクトの形成」が46件である（図 3.9 参照）。

「コーディネート推進強化コース」における人的ネットワークの形成について、「今後繋がりたい方が見つかった」の回答が17名（全体の89%）であり、本研修が人的ネットワーク形成に大変寄与していることが分かる（図 3.10 参照）。また、今後の人的ネットワークの活用について、最も多いのが「必要に応じた情報交換」で14件、次いで「農林水産・食品分野、農山漁村に関する専門的なアドバイスを期待」が7件、「具体的なプロジェクトまたは新たなプロジェクトの形成」が5件である（図 3.11 参照）。

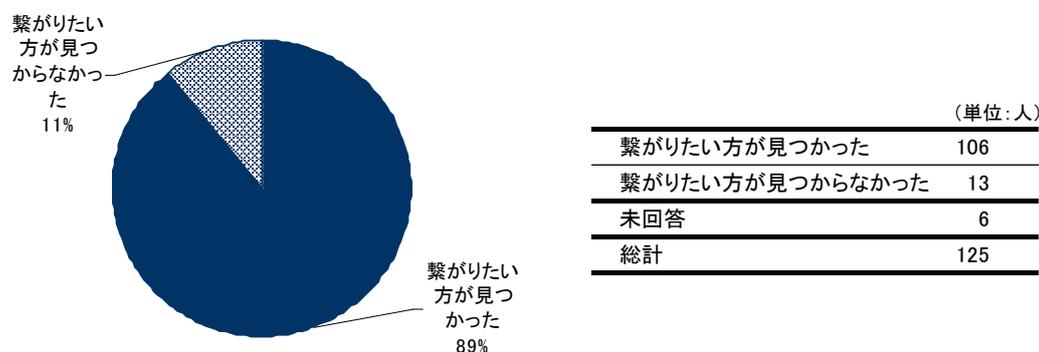
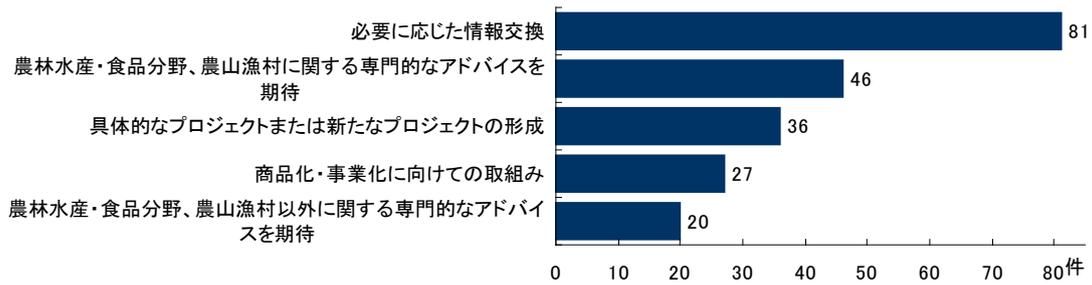


図 3.8 コーディネート推進コースの人的ネットワーク形成への寄与



注) 複数回答であり、上位5項目をあげている。

図 3.9 コーディネート推進コースの今後の人的ネットワークの活用

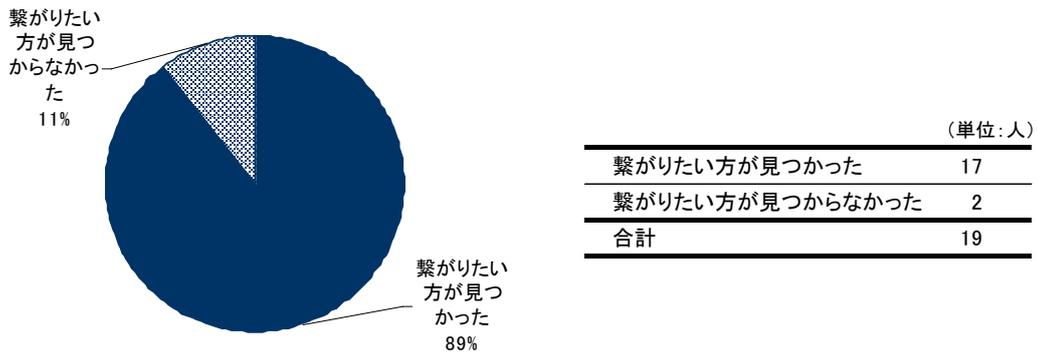
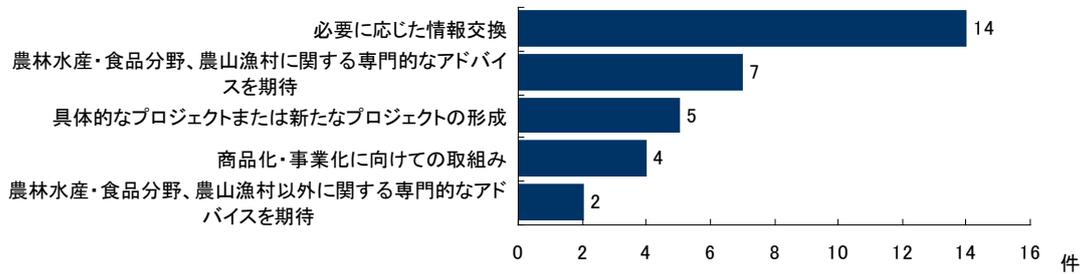


図 3.10 コーディネート推進強化コースの人的ネットワーク形成への寄与



注) 複数回答であり、上位5項目をあげている。

図 3.11 コーディネート推進強化コースの今後の人的ネットワークの活用

#### 4. 平成22年度コーディネーター人材育成研修計画の評価と今後のあり方

受講者の参加申込書と研修終了後のアンケートをもとに、平成22年度コーディネーター人材育成計画の評価を行った。その結果、「連携の推進」、「コーディネーターの資質・スキルの習得・向上」、「農林水産関連の情報・知識の習得」といった受講者の業務課題や本研修への要望に見合うプログラムを提供でき、プログラム全体、カリキュラムの内容のいずれにおいても「おおむね好評」であり、「今後の業務に活用できる」とし、全般的に研修の評価は高いといえる。

本研修の目的である「生産現場や産業界、社会におけるニーズから課題や要望を想定し、技術シーズとのマッチングにより研究課題を設定するために必要となる基礎的なスキルを習得すること」に関して、「コーディネーターの役割・活動が理解でき、コーディネーターの資質・スキルの習得・向上ができた」と高く評価されており、受講者の研修受講前の意識として多かった「産学連携の推進のためのコーディネーターの要件」に対して適切なカリキュラムの内容を提供でき、本研修の目的が達成できたといえる。今後、コーディネーターによる産学連携活動のさらなる推進が期待される。また、受講者の業務課題や研修への要望が高かった「コーディネーターの資質・スキル」のうち、客観的な評価手法への関心は高く、「スキルは実践しないと身につかない」とするも「基本的な考え方は理解できた」や「分析ツール・評価手法の習得・強化ができた」との回答が多く、今後業務で活用されることが期待される。

さらに、さまざまな立場の方々の意見を聞くことができた「討議を含めた実践的な研修形式」について高く評価されている。また、「人脈づくりができた」との受講者が多く、本研修が受講者相互の知識や活動の共有、補完の場に大きく寄与したことが分かる。今後、分野を問わず、異分野連携の必要性が認識され、単なる情報交換にとどまらず、プロジェクトの形成への発展が期待される。

これらの点から、総合的に判断すると、本研修は、農林水産・食品産業分野におけるコーディネーターの効果的な活動を強化する有効なプログラムであることをうかがうことができる。

いっぽう、研修プログラムの工夫が必要な点や要望について、「具体的な農水コーディネーターの活動事例を多く紹介してほしい」、「評価手法についてより具体的な事例を使って解説してほしい」、「評価手法について農林水産分野の場合の活用法を説明してほしい」、「農林水産関連の事例の概観と解説がほしい」の意見が多く、これらは、受講者の研修への要望が多かった「事例研究」に対し、本研修では受講者にとって業務で直面する課題解決に有効となる事例の紹介が多くなされなかったことが分かった。

これらの点から、次年度以降のコーディネーター人材育成研修計画では、次の事項をカリキュラムに反映させることが必要であると考ええる。

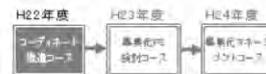
- ・分析ツール・評価手法を活用した体系的なカリキュラム
- ・農林水産分野や異分野連携の事例を用いた実践的なカリキュラム
- ・十分な討議を通じ具体的な課題解決の方向性を見いだせるカリキュラム

これらを考慮することにより、コーディネーター人材育成研修を通じて、農林水産・食品産業分野において真に活躍するコーディネーターを輩出することで、産学連携活動のさらなる推進における効果が高まることが期待できる。

資料

【参加申込書】

H22年度  
九州  
開催  
農林水産省委託事業  
「平成22年度 産学連携人材育成支援委託事業」



農林水産・食品産業分野コーディネーター人材育成研修プログラム 参加申込書  
《参加費無料》 募集定員 35名

《ご記入にあたって》

- ・本申込書は、メールに添付してご返送ください。参加定員がございますので、早めにお申し込みください。
- ・回答欄に「-選択して下さい」と表記されているものについては、セルをクリックして表示されるリストよりあてはまるものを選んでください。

《参加通知について》

- ・事務局よりメールにて『正式参加通知』を別途ご案内致します。

[お問い合わせ先]

コーディネーター人材育成研修運営事務局  
財団法人 全日本地域研究交流協会(JAREC)

担当 鈴木・長嶋  
E-mail [maffkenshu-kyushu@jarec.or.jp](mailto:maffkenshu-kyushu@jarec.or.jp)  
TEL 03-3831-5911 FAX 03-3831-702

■ 参加希望日をチェックしてください。

【九州地域開催】『コーディネート推進コース』は2日間で1つのコースとなっております。

- 1日目 1月13日(木) 13:00-17:00 アクロス福岡 607会議室
- 2日目 1月14日(金) 10:00-16:00 アクロス福岡 607会議室

※1日だけの参加も可能です。

尚、参加定員がございますので、参加通知受領後のキャンセルはご遠慮ください。

■ 必要事項をご記入ください。(必須)

フリガナ				姓と名の間に全角で空白を入れてください
氏名				姓と名の間に全角で空白を入れてください
所属機関名			機関区分	-選択して下さい-
部署名			部署区分	-選択して下さい-
役職				
連絡先	住所	〒	都道府県	-選択して下さい-
	市区町村以下			
	E-mail			
	TEL		FAX	

■ 業務内容および研修の要望についてお問い合わせ致します。(必須)

Q1. 現在主に従事されているのは産学連携に関わる業務ですか。

- はい  いいえ

Q2. 現在担当している業務内容についてご記入ください。

主な担当分野 (両方選択) (その他の場合記入してください。)*	担当分野1 -選択して下さい-	担当分野2 -選択して下さい-	経験年数	-選択して下さい-	
業務の目的	-選択して下さい-	主な連携機関	-選択して下さい-	-選択して下さい-	-選択して下さい-
業務内容 (具体的に記入してください。)	1				
	2				
	3				
	4				
	5				

Q3. 業務において抱えている課題についてご記入ください。

1	
2	
3	

Q4. 業務に有用であると考えられる情報についてご記入ください。

1	
2	

Q5. 業務を遂行するにあたり不足していると考えられる主なスキルについてご記入ください。

1	
2	

Q6. 研修に対する要望をご記入ください。

1	
2	
3	

※ ご記入頂きました個人情報等は、財団法人全日本地域研究交流協会の個人情報保護方針に基づき適正に管理いたします。

## 【事後アンケート】

農林水産省主催

### 『農林水産・食品産業分野におけるコーディネーター人材育成研修プログラム』(九州開催) 【事後アンケート】

『農林水産・食品産業分野におけるコーディネーター人材育成研修プログラム』にご参加いただきまして大変ありがとうございました。  
今後の研修を実施するにあたり、参加者のニーズにマッチしたより効果の高い研修を提供したいと考えております。つきましては、皆さまのご意見をお伺い致したく本アンケートにご協力のほどお願い申し上げます。  
(所要時間 15分程度)  
**1月25日(金)**までに、事務局宛にメールにて返信いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

- ◆ 必要事項をご記入願います。

所属機関名		機関区分	-選択して下さい-
氏名	*姓と名の間に全角で空白を入れてください。		

- ◆ 研修プログラム全体についてお聞きます。

1 今回の研修に参加されてどのような印象をお持ちですか。

大変役に立った     おおむね役に立った     どちらともいえない     あまり役立たなかった     全く役立たなかった

↓ 回答理由をお聞かせください。

.
---

2 本研修では以下の2つのスキルの取得を研修の目的としておりますが、それぞれのスキルについて身に付いたと思いますか。

2-1 『生産現場や産業界、社会におけるニーズから課題や要望を想定するために必要となる基礎的なスキル』

身についたと思う     身についたと思わない     どちらともいえない

↓ 回答理由をお聞かせください。

.
---

2-2 『(課題や要望を想定し)技術シーズとのマッチングにより研究課題を設定するために必要となる基本的なスキル』

身についたと思う     身についたと思わない     どちらともいえない

↓ 回答理由をお聞かせください。

.
---

3 今回の研修は受講者の皆さまに主体的に参画していただきながら進めてまいりましたが、どのように思われましたか。

- 十分に参画でき満足     参画機会は少なかったが満足     参画機会はあったが不満     参画機がなく不満

↓「参画機会はあったが不満」または「参画機がなく不満」と回答された方にお伺いします。どのような工夫が必要だと考えますか。(複数回答可)

- 講演に対して質疑応答の時間がもっとほしい
- 討議の時間で講師・参加者との間で討議をすべき
- グループ討議の時間をより多く取ってほしい
- 個別の課題について講師に相談する時間がほしい
- その他

↓「その他」を回答された方は具体的な内容をお聞かせください。

+

4 今回の研修内容は今後の業務に活かせると思いますか。

- 大変活かせる     ほとんど活かせない     どちらともいえない

◆それぞれの研修プログラムについてお聞きします。

【1日目】

- 【講演1】『農林水産分野における技術政策および研究の現状』(農林水産省)  
【研修のポイント】 農林水産省の重点目標と研究の現状および事業内容を知る

5-1 このプログラムは今後の業務に活かせると思いますか。

- 大変活かせる     ほとんど活かせない     どちらともいえない

5-2 講師の説明は分かりやすかったですか。

- 分かりやすかった     分かりづらかった     どちらともいえない

5-3 このプログラムの研修のポイントは理解できましたか。

- 理解できた     理解できなかった     どちらともいえない

5-4 このプログラムで良かった点をお聞かせください。

+

5-5 このプログラムで工夫が必要と思われる点をお聞かせください。

+

- 【講義・討議1】『農林水産系コーディネーターに求める視点』（北村寛彬 講師）  
【研修のポイント】 農林水産分野のコーディネーターの 勤所を知る

6-1 このプログラムは今後の業務に活かせると思いますか。

<input type="radio"/> 大変活かせる	<input type="radio"/> ほとんど活かせない	<input type="radio"/> どちらともいえない
------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

6-2 講師の説明は分かりやすかったですか。

<input type="radio"/> 分かりやすかった	<input type="radio"/> 分かりづらかった	<input type="radio"/> どちらともいえない
--------------------------------	--------------------------------	---------------------------------

6-3 このプログラムの研修のポイントは理解できましたか。

<input type="radio"/> 理解できた	<input type="radio"/> 理解できなかった	<input type="radio"/> どちらともいえない
-----------------------------	--------------------------------	---------------------------------

6-4 このプログラムで良かった点をお聞かせください。

.
---

6-5 このプログラムで工夫が必要と思われる点をお聞かせください。

.
---

- 【講義・討議2】『現場からの提案で行われてきた農林水産関連研究の概観』（齋藤省吾 講師）  
【研修のポイント】 農林水産関連研究テーマの俯瞰と研究の重点化動向を知る

7-1 このプログラムは今後の業務に活かせると思いますか。

<input type="radio"/> 大変活かせる	<input type="radio"/> ほとんど活かせない	<input type="radio"/> どちらともいえない
------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

7-2 講師の説明は分かりやすかったですか。

<input type="radio"/> 分かりやすかった	<input type="radio"/> 分かりづらかった	<input type="radio"/> どちらともいえない
--------------------------------	--------------------------------	---------------------------------

7-3 このプログラムの研修のポイントは理解できましたか。

<input type="radio"/> 理解できた	<input type="radio"/> 理解できなかった	<input type="radio"/> どちらともいえない
-----------------------------	--------------------------------	---------------------------------

7-4 このプログラムで良かった点をお聞かせください。

.
---

7-5 このプログラムで工夫が必要と思われる点をお聞かせください。

.
---

- 【講義・討議3】『研究ニーズの評価の視点』（齋藤省吾 講師）  
【研修のポイント】 研究ニーズの評価の視点を技術の選別法から学ぶ

8-1 このプログラムは今後の業務に活かせると思いますか。

<input type="radio"/> 大変活かせる	<input type="radio"/> ほとんど活かせない	<input type="radio"/> どちらともいえない
------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

8-2 講師の説明は分かりやすかったですか。

<input type="radio"/> 分かりやすかった	<input type="radio"/> 分かりづらかった	<input type="radio"/> どちらともいえない
--------------------------------	--------------------------------	---------------------------------

8-3 このプログラムの研修のポイントは理解できましたか。

<input type="radio"/> 理解できた	<input type="radio"/> 理解できなかった	<input type="radio"/> どちらともいえない
-----------------------------	--------------------------------	---------------------------------

8-4 このプログラムで良かった点をお聞かせください。

.
---

8-5 このプログラムで工夫が必要と思われる点をお聞かせください。

.
---

【2日目】

- 【講演2】『酪農・食品系排水の非生物（旋回噴流式オゾン酸化）処理システム』（設楽守良 講師）  
【研修のポイント】 異分野連携の取り組み事例から課題解決推進に向けたポイントを探る

9-1 このプログラムは今後の業務に活かせると思いますか。

<input type="radio"/> 大変活かせる	<input type="radio"/> ほとんど活かせない	<input type="radio"/> どちらともいえない
------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

9-2 講師の説明は分かりやすかったですか。

<input type="radio"/> 分かりやすかった	<input type="radio"/> 分かりづらかった	<input type="radio"/> どちらともいえない
--------------------------------	--------------------------------	---------------------------------

9-3 このプログラムの研修のポイントは理解できましたか。

<input type="radio"/> 理解できた	<input type="radio"/> 理解できなかった	<input type="radio"/> どちらともいえない
-----------------------------	--------------------------------	---------------------------------

9-4 このプログラムで良かった点をお聞かせください。

.
---

9-5 このプログラムで工夫が必要と思われる点をお聞かせください。

.
---

- [講演3] 『水産物の安全・安心に向けたトレーサビリティの開発および推進への取り組みについて』(三上貞芳 講師)  
[研修のポイント] 産学連携の実績事例から課題解決推進に向けてのポイントを探る

10-1 このプログラムは今後の業務に活かせると思いますか。

<input type="radio"/> 大変活かせる	<input type="radio"/> ほとんど活かせない	<input type="radio"/> どちらともいえない
------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

10-2 講師の説明は分かりやすかったですか。

<input type="radio"/> 分かりやすかった	<input type="radio"/> 分かりづらかった	<input type="radio"/> どちらともいえない
--------------------------------	--------------------------------	---------------------------------

10-3 このプログラムの研修のポイントは理解できましたか。

<input type="radio"/> 理解できた	<input type="radio"/> 理解できなかった	<input type="radio"/> どちらともいえない
-----------------------------	--------------------------------	---------------------------------

10-4 このプログラムで良かった点をお聞かせください。

.
---

10-5 このプログラムで工夫が必要と思われる点をお聞かせください。

.
---

- [ケースメソッド] 『現場ニーズに即した研究計画をつくるには？ 計画形成のポイント』(齋藤省吾 講師)  
『現場ニーズからの課題(解決策)設定に向けた俯瞰分析シートの説明』(事務局)  
[研修のポイント] グループ討議のアプローチについてケース事例をもとに検討方法を知る

11-1 このプログラムは今後の業務に活かせると思いますか。

<input type="radio"/> 大変活かせる	<input type="radio"/> ほとんど活かせない	<input type="radio"/> どちらともいえない
------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

11-2 講師の説明は分かりやすかったですか。

<input type="radio"/> 分かりやすかった	<input type="radio"/> 分かりづらかった	<input type="radio"/> どちらともいえない
--------------------------------	--------------------------------	---------------------------------

11-3 このプログラムの研修のポイントは理解できましたか。

<input type="radio"/> 理解できた	<input type="radio"/> 理解できなかった	<input type="radio"/> どちらともいえない
-----------------------------	--------------------------------	---------------------------------

11-4 グループ討議で使うシートの説明は理解できましたか。

<input type="radio"/> 理解できた	<input type="radio"/> 理解できなかった	<input type="radio"/> どちらともいえない
-----------------------------	--------------------------------	---------------------------------

11-5 このプログラムで良かった点をお聞かせください。

.
---

11-6 このプログラムで工夫が必要と思われる点をお聞かせください。

.
---

- [グループ討議]  
[研修のポイント] 事例での研究ニーズの洗い出しと研究課題の設定・課題解決までのポイントを整理し、  
新たな視点での課題解決の方策を検討する

12-1 どちらのグループに参加されましたか。

1グループ(設楽講師テーマ)       2グループ(三上講師テーマ)

12-2 グループ討議は今後の業務に活かせると思いますか。

大変活かせる       ほとんど活かせない       どちらともいえない

12-3 グループ討議はどのように思われましたか。

十分に参画でき満足       参画機会は少なかったが満足       参画機会はあったが不満       参画機会がなく不満

12-4 グループ討議で使ったシートは理解できましたか。

理解できた       理解できなかった       どちらともいえない

12-5 このプログラムで良かった点をお聞かせください。

・

12-6 このプログラムで工夫が必要と思われる点をお聞かせください。

・

◆ 研修全般についてお聞きます。

13 今回、研修に参加して今後繋がっていきたい方は見つかりましたか。

はい       いいえ

↓ 「はい」と回答された方にお伺いします。  
「今後繋がっていきたい方」とはどのような連携を望みますか。(複数回答可)

- 具体的なプロジェクトまたは新たなプロジェクトの形成
- 農林水産・食品分野、農山漁村に関する専門的なアドバイスを期待
- 農林水産・食品分野、農山漁村以外に関する専門的なアドバイスを期待
- 必要に応じた情報交換
- 商品化・事業化に向けての取組み
- その他

↓ 「その他」を回答された方は具体的な内容をお聞かせください。

・

14 講師または受講者から新たな視点・気付き・情報などありましたらご記入ください。

.

15 研修に参加して良かったと感じたことがありましたらご記入ください。

.

16 今後、研修で取上げて欲しいテーマ・内容およびスキルの習得について要望がありましたらご記入ください。

.

17 研修の形式としてあったら良いと思うものは何ですか。(複数回答可)

1日みの研修

現場視察

参加者の事例を題材とした研修

参加者の交流会

その他

↓「その他」を回答された方は具体的な内容をお聞かせください。

.

18 農林水産省のプロジェクトの構築をメインにした事例を多く取り上げる研修プログラムがあったら参加したいですか。

はい

いいえ

19 今回の研修に参加したきっかけは何ですか

運営事務局(財団法人 全日本地域研究交流協会)からの郵送案内

運営事務局(財団法人 全日本地域研究交流協会)からの電子メールでの案内

農林水産省のプレスリリース

農林水産関係機関からの紹介

上司・同僚からの勧め

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。

※このアンケート結果は、当協会の規定に従い、適正に集計・管理を行います。

